明治四十三年十二月二十日發行

婦人衛生雜誌

第二百五十参號

婦人衞生雜誌

第二百五拾三號目次

講演

叢談

育兒

家庭衞生

雜報

廣告

明治四十四年

新年會

來年一月二十一日（第四土曜日）午後一時より新年相互の禮を兼ね神田區一ツ橋通り女子職業學校内に於て新年會相催し餘興も有之候間御知友御同伴御來會相成度奉希望候也

餘興　講談　其他

明治四十三年十二月

私立大日本婦人衞生會

婦人衛生雜誌第二百五十三號
（明治四十三年十二月二十日發行）

講演

乳房の話

醫學士　河島右一

本會は今幹事の方よりお話になつた通り、毎月一回衛生上の講演を開かれ、又衛生雜誌を發行せられて一般の婦人方に衛生思想を普及されて今日では多數の會員を有し、非常に其效果が現はれて居られます點に於きましては誠に喜ばしき譯でございます。何うぞ今後一層衛生上の注意を希望して已まざる次第でございます。

私は此會に出ますのは是で二回目でございます。前回に於きまして御婦人方に付て極く必要な大切なる月經と云ふ演題でお話を致しまして、其終りにつまり月經日誌を何う云ふ風にするが宜からうと云ふことを考へまして出來上りましたので今日持參を致しました次第でございます。それは月經と云ふことは前回も申上げました通り、御婦人方に取つては極く大切な事柄であつて、月經と云ふことは御婦人方獨特のものである。此の月經を輕々しく見ると否とは婦人の身體に大影響を及ぼすのでございます。之を毎月調べて他日の參考にすることは必要なことであります。是は病氣を未發に防ぐと云ふ點もありますが、又一方から一つの興味ある問題であらうと思ふ。何故であるかと云ふと、大抵御婦人方は年齡十六歳頃からして始まつて三十年間月經が持續して居ります。それを毎月の經過の狀態を書いて置いて三十年間の後に自分の月經は如何なる經過を取つて來たものであるか、如何に圓滿に來たか、如何に病的に經過して來たかと云ふことを見るのも亦興味あるこ

ことである。兎角今迄は月經と云ふことに付て皆樣が非常に控目になつて、色々のお話をしやうと思つてもする機會が少い。其場合に自分が經驗をした三十年間の歷史を默つてお見せになつたならば、自分の幾つの時には斯う云ふことがあつた。結婚後には斯う云ふことがあつた。姙娠前には斯う云ふことがあつたと云ふことをお示しになつたならば非常に參考になる。其場合には斯う云ふ風にしたら宜いと云ふことが從つて分る。それで旁々興味あることであらうと思ひますから、皆樣は此月經日誌へ引續きお控へになつて宜からうと思ひます。其付け方は斯樣に書いて置きましたが、此期間と云ふのは何日から何日迄と云ふことを書きます、量は之を計ることは出來ませぬ只だ一番初めにあつた時を標準にして、それより多いか少いかと云ふことを比較して多少を書いて置いたら宜しからうと思ひます。副症狀と云ふのは月經の際には屢々腹痛頭痛などが伴ひますから之を書いて置く。摘要と云ふのは此外に色々な諸異狀が起つて來る。其場合に書いて置いたら宜からうと思ひます。それが十二ヶ月になつて居りますから此紙が三十枚程あれば自分の月經の歷史を明かに載せることが出來ます。何うぞ自分の月經を忘れずに付けて、自分の月經は何う云ふ風な經過を取つて來て居ると云ふことをお考になれば大變に利益になる。此月經日誌は今上げましたのは標本でありますから皆樣は每月お付けになることを希望致します月經日誌の事は此位にして置きまして今日の演題は幹事から先程お話のありました通り乳房の話と云ふことでございます。

此乳房は男女兩性が有して居る機關であります。然るに男子の乳房は生後其發育が止つて仕舞ひ、一見男子にあつては乳房は無用の長物の觀があるのであります。併ながら時としては男子の乳房と雖も其發育が稍々進んで來て大きくなり、乳汁を分泌する例もないことはないのであります。併しそれは異例であつて先づ普通の男子は其機能は無いものとして差

支ない。男子の乳房に付きましては申上げるだけの値がないから申上げませぬ。然るに女子の乳房は何う云ふものであるかと云ふに、それは男子と違つて生後乳房は他の機關と一致して漸々發育を遂げる。或年齡に達すると發育の頂上に達し遂に乳汁を分泌する。其分泌された乳汁に依て嬰兒は養はれ發育するのであります。嬰兒の發育の良不良は一に乳汁の量に關するものであります。それでありますから女子の乳房は大切な機關であります。又婦人に取つて獨特の機能でありますからそれを保護しそれをして何等の障礙なく其機能を完からしむるのは婦人の義務である。又此事に付て十分の智識を以て其機能の完全を圖ることは御婦人の最も必要なることであります。夫故に今日特別に乳房と云ふ題を選んだことでございます。

此乳房は何時頃から發育が始まるものであるかと云ふに妊娠四ケ月頃から乳房が發育する。而してそれが體內に於て胎兒の發育と共に發達をして、分娩の際に皆さん御承知のやうな大きさに達するのであります。其場合に男子の乳房と女子の乳房との差があるかないか。一寸見た所では男子の乳房も女子の乳房も同じやうであるが、詳細に檢查すると男子のよりは女子の方が發達して居る。

次に乳房は普通胸部の兩側に一對あるのが當り前であります。併ながら時としては二對も三對もあることがある。其在る所は何處にあるかと云ふと、普通乳房のある所より內側にあつたり又外側にある。時に依ると腋下にあることがある。是等は普通副乳房と云つて普通の乳房と一見して兩者の區別が明かである。それで乳汁は乳房が發育しなければ出ないかと申しますと異例に依ると分娩の終りに當つて分娩した嬰兒の乳房から直に乳汁の分泌がある。是は體內に於ける乳房の發育に關係するものであつてさう云ふ異例もある。是は御承知の通りにあつて差支ない。生後漸々乳房は發育して行きますが、男子の乳房は其發育を停止するのでありますが、女子の乳房

は發育を遂げて行つて或年齡に達すると一定の發育を遂げるのであります。其場合に何う云ふ風な程度に發育するものであるか一應乳房の大體に付てお話しやうと思ひます。

皆さんも御承知でありますが、乳房は胸部の兩側にある。第三肋骨から第七に亙つて存在するのであります。左の方が心臟の上、右の方は肺の上に在る、而して其形は圓錐形をなして居る。一番頂上の普通褐色又は赤色に變色して居る所を普通ちくびと云つて居ります。之に乳頭と云ふ名前を與へる。此乳頭の表面に十二乃至十五の穴が開いて居る。是は乳腺の開口部である。其處から乳汁が分泌する。其下に普通褐色になつて居る部分がある。其部分を乳暈と申します。其表面には數多の腺があつて特別な分泌物がある。さう云ふ風に乳房の大體が區別されて居ります。所で乳房の形狀は一樣でない。乳頭から申しますと乳頭の非常に大きい者も又小さい者もある又人に依ると乳頭を手に觸れることの出來ない者もあります。又乳暈に於ても大きいのは一寸以上もある。又僅か二分か三分に達して居ない人もある。乳房其ものゝ形狀も違ふ。大抵處女の方は胸部に直立して居る。然るに分娩をした人は垂れて居る。又其大きさも發育の好い方は胸部の大部分を占めて大きくなつて居る。又發育の惡い人は極く小部を占めて居るのであります。而して其構造は何うであるかと云ふと、內部の構造は乳房の大部分を占めて居る乳腺と云つて乳汁を分泌する腺がある。乳房輪及び乳頭に乳汁が分泌されるのを導いて行く輸乳管があるそれの集合したものでありましてそれから乳汁が出るのであります。さう云ふ風な構造形狀を以て乳房が成立つて居る是が乳房の大體の構造であります」

次に此乳房が如何に發育して行くかと申しますと、生後漸次發育を遂げますが、年齡七八歲頃になりますとそれ以前よりか特別な發達をするものであります。乳房の組織が漸々大きくなり、時には其時代に乳汁の出る者もある。此時代からして乳房の發育は

大に生殖器と特別な關係を持つて居るものであります。月經が來潮する每に乳房の發育が著しくなる。又感情の上に於て影響するのがある。感情の發達は非常に著しい。又乳房の發達も著しいのであります。感情の發達と云ふことが乳房に關係し、乳房の發達は又月經に關係するやうなことがある。それで乳房の發育の狀態を見て、それで此方は月經が已に來潮して居るのか又、此方は感情が發達して居るかと云ふことが認められると云ふ位に乳房が月經及び感情の標準となつて居る。それから漸次發達致しまして十六歲頃になると非常な速度を以て發育するのであります。さうして完全なる形體を備へ組織を備へるやうになる。

初經を見る前に乳房との關係は何う云ふ風になるかと云ふことを申しますと、皆な斯う云ふことがある譯ではありませぬが、時に依ると初經を見ない內に屢〻乳房の疼痛を感ずることがある。或は乳頭に著物が障ると其場合に限つて非常に感じが強くなることで或は月經になりはしないかと云ふことを知る。月經になつて初經を見る後には乳房に何う云ふ關係があるか。と云ふに月經には色々な症狀がありますがまだ、月經の來ない前に何かの機會で乳房に刺戟を與ふるか、或は觸ると云ふことからして月經を見る者もあります。又一旦月經があつて每月あつたものが途中で無くなることがある。其場合に乳房に刺戟を與へた爲に月經を見ることもある。又每月一回ある者が乳房を刺戟した爲に二回三回見ることがある。斯う云ふ風に乳房の刺戟は月經に對して影響を及ぼすのであります。

玆に一寸辯じて措きたいことは、世間で乳房輪の所に毛のある人がある。長い毛のある者がある。さう云ふ人は妊娠をしないと云ふことを云ふ人がありますが、それは決してさう云ふことはないのであります。それがあつたから妊娠をしないと云ふことはない。それは偶然其處に毛根があつて毛が生へて居るのであるから心配するべきものではない。

次に結婚後に於て何う云ふ風に發達して來るかと云ふに結婚を致しますと又一層の發育を始めるのであります。遂に妊娠の期になると特別乳房に變化を呈するのであります。何う云ふ風に變化をするかと申しますと、妊娠二ケ月(月經が止つてから)頃になると次の徵候が乳房に現はれて參ります。第一乳房に觸つて見ると云うと、普通の月經が每月あつた時よりか乳房が堅いやうな感じがある。又他の部分よりは其部分が特別に暖いやうな感じがする。それから乳頭は觸つて見ると特別に感じ易きやうなことがある。それから又乳房輪が他の部分と區別が出來るやうに黑くなる。さう云ふことの外に時に依ると乳汁が分泌することがある。是等は明かに妊娠徵候の一つとなつて居つて、吾々が妊娠を豫想する上に於て乳房の鑑定をする場合はそれを見るのであります。斯の如く妊娠の場合には乳房の變化を來たすのである。妊娠が進むと之れに連れて愈々乳房の發達が著しくなつて遂に分娩の期になると乳汁が分泌されるやうになる。さうして分娩が終つて又盛んに乳汁が分泌する。乳汁分泌に付て注意しなければならぬことは、分娩後には乳汁と云つても極く淡い黄色の乳汁が出るのであります。是は醫者の方で初乳と云ふ名前を付けてありますが嬰兒に對しては榮養になるべきものではない。故に是は榨つて仕舞つて新しい白い乳が出る場合に於て嬰兒に與へた方が宜からうと思ふ。それは乳汁の分泌は漸々其濃度を增す。嬰兒はそれに依て生育するのであります。然らば乳汁の分泌が分娩後何時頃迄分泌するものであるかと云ふと、大抵滿一ケ年位、時に依ると二年も三年も續いて乳汁の分泌することがある。乳汁が分泌すれば何時迄も子供に乳を飮まして差支ないかと云うとそれは餘程考へなければならぬ。何せであるかと云うと乳汁は分娩後漸次嬰兒の身體の發育に連れて其濃度が變つて來る。初めは淡いが漸々濃度が增す。さうして或時期になつて又漸次其濃度が減つて來て極稀薄の乳汁になつて來る。或時期になると嬰兒に斷

が生へる。歯で物を噛むことが出來る。何でも食べて差支ないやうになれば歯と云ふものが生へて來るのであります。一方乳汁の濃度が漸々減じて來てホンの補ひをする位になてつ居りますから一年經つたら必らず副食物を與へて乳汁を出來るだけ減ずるやうにしたら宜からうと思ひます。それも一方衛生の上に於てのことでありますが母親の身體に影響を與へる。月經は分娩後止つて居ります。所で二年も三年も飲まして置くと引續き月經は無い。それは何う云ふ譯であるか。乳汁の分泌と生殖器との關係は非常に密接な關係を持つて居るのであります。特に卵巣との關係があるのであります。若も餘り長く乳を飲まして置くと月經が無い。さうすると卵巣の機能が漸々鈍くなつて仕舞ふ。遂に其極になると卵巣の萎縮を來たして、今度は乳を飲ますことを廢めても月經が無いことがあります。若も飲ますことの爲に自分の身體特に生殖器に異常を來たすことがあつたならば、其嬰兒だけならば宜いが將來不妊娠症を來たすやうになれば大變な損耗である。嬰兒に長く乳を飲ますと云ふことは親として至當な情でありますが、此點は餘程注意をしなければならぬ。誕生が過ぎたならば副食物を與へて哺乳を避けるやうにした方が宜からうと思ひます。

斯の如く乳汁の分泌が變つて來て第二の分娩の準備が出來るのであります。妊娠の準備が出來るのであります。それと同時に乳房の方は次に來る妊娠の準備として其處に變化を起す。次に妊娠が來る。又前の經過を繰返すと云ふことで三十年間を經過して段々仕舞になつて月經も止つて仕舞つて、生殖器の機能閉止と共に乳房の機能が閉止されて全く萎縮して其機能が終るのであります。是が乳房の一生の歴史となるのであります。斯の如く乳房なるものは嬰兒を哺育する上に於て、又生殖器等の關係に於て密接な關係がある大事な機關であります。それに付て一つお話し申上げて置きたいことは乳房の保護と云ふことに付ては何う保護すべきものであるか。乳房は

胸部にあるのでありますから著物を著る時に關係がある。著物を著る際には出來るだけ乳房を保護しなければならぬ。西洋人はどの點から考へたものか分りませぬが。自分の身體と調和を取る爲にコルゼットを纏ふ。それは何う云ふ考から來たものであるか自分で想像をするに、前に乳房がある。後ろに臀部がある。此調和を取る爲にコルセットを付ける。乳房を引締めないで之を見せぬやうにするのと、乳房其ものを自然の體裁に保つて自分の容姿を正しくすると云ふ所から出たものでないかと思ふ。それは西洋人の眞似をして宜いか何うかと云ふことは問題でありますが、乳房其ものを自然の形に保つて保護をしつゝ自分の容姿を正しくすると云ふ考は誠に宜いことであります。日本の御婦人方の著物の著方を見ますると、帶が腹の前にある。それで比較的に胸部を締める傾きがある。是は注意しなければならぬことで、前を合せる時乳を非常に刺戟して壓迫をする傾きがある、それは處女の場合には乳房が左程に發達しませぬから構ひませぬが、結婚後の御方になると非常に乳房の發育が宜いから著物を著ると自然乳房を刺戟することになる。成るべく著物を著る場合であつたならば乳房が自分の胸部にあるものである、大切なる乳房が此處にあると云ふことを自分で考へて、さうして成るべくそれを壓迫しないと云ふ方法を取つて著物を著るやうにしなければならぬと思ふ。或西洋の婦人が分娩後に於て非常に乳房が大きくなつて困る。それに付ては何とかして之を保護しなければならぬと云ふことで特に乳房の所を大きくして置いたと云ふことを聞きましたけれども、それは大變に乳房と云ふ點に重きを置いたもので結構なことであります。それで何うぞ皆様方も著物著る場合には乳房は胸部にあると云ふことに注意して著物を著るやうにしなければなりませぬ。

次に乳房には色々な病氣がある。炎症性のものが多い。先づ普通乳房に來る病氣は乳房炎で是が一番多いのであります。此乳房炎は乳房に取つては大敵で

あります。それが爲には非常な損害を受けて遂に乳房の機能が無くなつて仕舞ふやうになる、是は各年齢を通して來るものである。若いから來ない年取つたから來ないと云ふやうなことはない各年齢を通して來る、それは何う云ふ原因であるか。第一は外傷——外から來る。第二には乳頭の表面乳腺の開口部から黴菌が這入つて炎症を起すのでありますが、處女の方は外傷に由ることが多いのであります。又結婚後の方は乳頭の開口部から黴菌が侵入する。結婚後の婦人に於ても初産の方が多くつて屡々乳房炎に罹る方がある。處女の時代に於ては何う云ふ風にして來るかと云うと或機會で乳房を打つことがある其打つた刺戟の爲に炎症を起して化膿性になることがある。又殊に依ると乳房部に極く小さい粟粒のやうなものが出來て、それが無闇に痒いと云うて掻く。それが爲に乳房炎を起した者もある。要するに外傷から起ることがありますから是は注意しなければならぬ。結婚後の方になると外部の刺戟に抵抗する力が弱いから自然外傷に堪へ惡い。又乳腺の開口部が明いて居るから黴菌が這入るから一層乳房炎に罹る傾きがある。それから色々なことがありますが、先づ第一に乳汁の分泌の爲に乳房が非常に不潔になる。乳汁の分泌の爲に特別に病氣に罹り易い傾きを持つて居る。又嬰兒に飲せる場合に黴菌が這入ることがある。又着物の爲に乳頭が摩擦され其爲に炎症を起し易い。又乳汁が停滯をする。子供に飲ませる場合に當つて飲む量と平行しないで停滯することがある。其場合に榨り出して置けば宜いが榨らないで置くと刺戟が酷くなつて乳房炎を起す。さう云ふ風に乳房が病氣となる場合が屡々あるのであります。斯う云ふ風に乳房炎を起した場合には何う云ふ風に症狀が來るか。先づ第一に其局部は腫れて赤くなる。痛みを覺える。時に依ると發熱をする。それが屡々酷くなつて來ると化膿性になる。化膿性になつて來ますと一層の痛み一層の發熱を起して來るのであります。乳房が化膿性になると是は何うしても手術を

行はなければならぬ場合がある。其場合には何うしても其化膿した部分を取つて仕舞はなければならぬ是がうまく行けば大變に好い具合に癒りますが、うまく行かないと遂う〱其組織に變化を及ぼして、其傷が全く癒つても乳汁分泌の機能が消へて仕舞ふ乳房炎を煩つた爲に分娩後に於て乳汁の分泌が止つて大に困つた者がある、斯う云ふ様に乳房炎と云ふものは婦人に取つて最も恐るべきことでありますから各自に其豫防を講ずることをしなければならぬ。其豫防は何うしたら宜いか。第一に成るべく乳房の全體を壓迫しない刺戟を與へないやうにする。若も其部分に僅かな疵があり或は痒い所があつても決して爪で掻いて炎症を起すことのないやうに注意して早く其手當を受けるやうにしなければならぬ。

それから第三には成るべく他のことに依て乳頭を刺戟しないやうにする、時に依ると乳房を屢々揉む。斯う云ふやうな場合がありますがさう云ふやうなことは成るべくしないやうにしたい。乳房炎の媒介となると共に一方には月經に關係を來たすから注意しなければならぬ。又分娩後になると特別に乳汁の分泌が多くなりますから其局部を不潔にしないやうにしなければならぬ。其場合にはアルコールなり硼酸水なりで拭くやうに願ひたい。又分娩後乳房炎の豫防として嬰兒に乳を飲ませるのに屢々飲ませると云うと其の嬰兒の飲む量が少くなるから、成るべく時間を極めて乳を與へるやうにしなければならぬ。若も乳を與へる場合であつたならば、二つ張つて居れば兩方一度に飲ませることをしないで一方づゝ飲ませる。一方を飲まし切つて仕舞つて又一方を飲ませる。交代にする。乳を飲ませる際には成るべく嬰兒の口中を調べ、自分の乳頭も調べ、若も嬰兒の口中や乳頭に悪い物や何かあつたならばお互ひの健全を圖る爲に速かに硼酸水をガーゼに浸して拭いてやり自分の乳頭もアルコールや硼酸水で拭いてから飲ますやうにしなければなりませぬ。又乳を飲ます時には成るべく乳を上の方に引上げて飲ませる。さうす

ると乳が下の方に停滯しない。母親が嬰兒に乳を與へる場合には成るべく坐つた儘で乳を與ふるやうにしなければいけませぬ。寢て居つて飮ませる習慣を付けると嬰兒の方でも寢て居つては困難であります又不潔の物が局部にあつても十分見へないのであるから色々なことが起る。故に成るべく寢て飮ませることを避けて起きて飮ませるやうにしなければなりませぬ。晝の間は寢て居つて宜いとしても夜半になつて乳を與ふる場合に、寢て與ふると云ふ習慣を付けて置くと嬰兒に乳頭を含ませて寢て仕舞ふ。さうすると自然乳房の大部分が嬰兒の鼻に當つてそれが爲に窒息を來たすやうなことがある。それでありますから成るべく寢て飮ますことは廢めて起きて飮ませるやうにしなければなりませぬ。以上の如き注意を拂ふと同時に前にも申しましたが、出來るだけ哺乳を廢める時期を考へて他の物を與へるやうにしなければならぬ。それをやらぬと云うと母親の方に害がある。

次に乳房炎の外に乳房に付ての病氣がある。それは何かと申しますと腫瘍と云ふ塊りが出來ることがある。是は炎症に依る塊とは趣きが違つて炎症と等しく恐るべき疾患に罹ることがある。此塊りは痛みのあるものは左程心配になるものではない。それは炎症性のものである。けれども塊があつてそれが押へても何うしても痛くない斯う云ふのは注意しなければならない。此腫瘍には第一に囊腫第二に肉腫第三に癌腫と云ふのがある。囊腫肉腫は是は各年齡を通して來るのであります。囊腫と云ふのは一種の囊であつて之れに液體が溜つて塊が出來る。比較的性質の好いものである。肉腫は是は惡性であるけれども幾分か好い性質を持つて居るものである。それで此囊腫肉腫の經過は何う云ふ風に來るかと云うと、是は初めは小さい塊でありますが一年二年經つ間に漸々大きくなつて來るのであります。斯う云ふ場合があつたならば必ずそれは何の種類であるかと云ふことを鑑別して貰はなければならぬ。第三の

癌腫、是は皆さん御承知の通り癌腫と云ふものは色〳〵の病氣の中で一番恐いものである。癌其もの丶大體の性質は分つて居りますけれども之に對する療法が今日迄發見されて居ないのであります。それで塊があつて痛みが無い。斯う云ふものはそれが癌であると云ふことを發見することがあるのであります。さう云ふ風に痛みもなく何ともないものであつてさうして年齢が四十四五歳から六十歳頃迄の婦人で斯う云ふことがあつたならば癌ではなからうかと云ふことの豫想を付けて居るのであります。

それで其療治は何う云ふ風にするか。普通の癌と同じく乳房の一部を切つて仕舞ふ。切るのには何うして切るかそれは其患部全體を切つて取るのでありますが非常な大手術である。それであるから乳癌の豫防は何うしたら宜いかと云うと、出來得る限り早く診て貰ふ。最初塊が乳房に出來たならば直に醫者の處に行つて果して惡性のものであるか何うかを確めることが最も必要であります。若も其時期が早かつたならば乳房の一小部分を取つて其手術を終る。左すれば自分の健康に左程の障碍を及ぼさずして濟むことがある。既に三十年間の月經の機能を終り數多の分娩を終り數多の嬰兒を育つて是から安靜に世の中を送らうとする時期に至り、さう云ふ癌と云ふ恐るべき病の爲に苦しむやうなことがあつたならば一生涯苦しまなければならぬことでありますから、若もさう云ふことがあつたならば成るべくそれを早く豫防して自分の生命を一日も長く保つやうにしなければならぬ。是は殊に月經閉止後の婦人に注意するのであります。

乳房の關係に付きましては以上の通りでありますが玆に乳房と相關連して居ることに付て少し附加へて置かうと思ふ。乳房は乳汁を分泌する機能を持つて居るもので之に依て嬰兒が養はれて居るのであります。此乳汁は嬰兒の健康に大關係を持つて居るものでありますが、此哺乳と云ふことに付て大に研究しなければならぬ事柄があるのであります。歐洲の文

明が日本に輸入されて來まして色々なものが改良進歩して來たのでありますが、それに連れて母乳を廢めて只管牛乳を飮まして嬰兒を育てると云ふことが西洋から輸入されて來たのであります。それが爲には單に自分の乳が十分にありながら牛乳の方が宜いと云ふことで、高い價を出して牛乳を飮ましたと云ふ斯う云ふ時代もあつた。翻つて日本の古來の習慣を考へて見ますと決して日本には昔から牛乳を以て嬰兒を育てたと云ふことはないのであります。元來乳汁が乳房へ分泌されることは嬰兒を育てる材料に出來て居るものであります。日本の習慣が母乳を以て育てゝ來たのであります。それで果して害があつたか無かつたかと申しますと左程害が無い。日本人の健康狀態を考へて見ても母乳で育つても害と云ふものは無い。確に母乳の效能と云ふものは認められて居るのであります。然るに外國の文明に倣つてそれが輸入されて一時さう云ふ習慣が付いたが、近來では歐洲に於ても牛乳を以て嬰兒を育てることは廢れて、皇室の皇子の方々は勿論一般國民に母乳を以てしなければならぬと云ふことを奬勵する樣になりました。是は誠に結構なことであります。又或富豪は自分の嬰兒の爲に牛乳を是迄飮まして置きましたが、牛乳よりか人乳でなければならぬと云ふことを考へてそれが爲に乳母を探し遂に獨逸迄來た。獨逸の或村に乳母の產地と云ひませうか乳母を澤山外へ出す所の村がある。其處で二百五十人の乳母を選んで自分の國に連れて歸り嚴格檢査を行つて其中から二人を選び後の乳母を本國に歸したと云ふことがある。夫等は歐洲に於て如何に人乳の貴いかと云ふことを考へて來たことが分かる。斯の如く母乳は嬰兒を育てる材料であると云ふことは一般に認められるやうになつた。併し日本の習慣が是迄母乳に依て育てゝ來たから母乳でなければならぬと云ふことは少しく習慣を楯に取ることであるからいかないが、茲に二三の母乳でなければいけない、母乳は貴重なものであると云ふ根據になるべき點を擧げて見やうと

思ひます。第一には婦人の乳房が何の爲に出來て居るかと云うこ、是は取りも直さず或時期に達して結婚して妊娠をする。妊娠後に當つて乳房が非常に發育してそれからして乳汁が出てそれに依つて嬰兒を養ふと云ふ爲に乳房が與へられて居るのであります。是から自然から子供を哺育する材料として人間に與へられた大切な機關であります、それと第二には乳房は婦人の胸部にある。乳を飮ます場合には胸を明けなければならない。其場合に寒い時でも熱い時でも夜が夜中でも子供が乳を求むる時には乳ませなければならない。其場合に若も其處に十分な脂肪組織が無かつたならば外部の溫度の爲に刺戟を受けて屢々感冒に罹る。それで自然に胸を明けて置いても宜い、いつ何時哺乳しても宜いと云ふことで特別に脂肪組織が與へてある。是等は確に自然が巧妙なる考を以て賦與されたものである。第三には乳房は何處に付けてあるか足に付けたり背中に付けたり何處に付けても宜さうなものであるが胸部に付けてある。考へて見ると胸部には肺心臟などゝ云ふ大切な機關が備はつて居る。斯の如く乳房は身體樞要機關の上に位して居るものであつて內部のものと殆ど同一なる資格を持つて居る大切なものであります。それであるからして自然が決して足へ付けることをしない。又手へ付けることをしない。特に胸部へ乳房を付けたことは又考へなければならぬ。第四には乳汁の性質は初めに申しました通り最初は黃ろい淡いのが出て其次に白色の乳汁が出る。さうして段々濃度が殖へて來る。嬰兒の發育に連れて濃度が增加して來る是が牛乳を以て哺育する時には一ヶ月の間は是だけの量を與へる。二ヶ月の間は是丈の量を以てしなければならぬと云ふやうに加減して與へるのであります。然るに天然に與られた母乳は日一日と變つて來て嬰兒に適合するやうに其濃度が增すのでありますから、吾々が如何に人工を加へて色々な點から考へて調合した所で、天然の巧妙なる構造には敵はない

其次は經濟の點から云つても人乳は無代。牛乳は價を拂ふ。さうすれば殊更に金の掛らない人乳を捨てて金の要る牛乳を飲ませる必要はないと思ふ。其次には若し茲に子供が出來た場合に於て、それを人乳で育てた場合と牛乳で育てた場合には何う云ふ差異があるかと云ふことを考へて見る。母乳で育てる場合には母親は殆ど夜晝寢ないで手數を掛けて子供を養育するのであります。從つて其子供に對する愛情が一層深くなつて子供に對する親密が非常に增すのであります。自分の乳がありながら牛乳を飲ます時は母親の其子に對する愛情が餘程薄い。又乳母に依て育てた場合は、乳を飲ませたことの爲に非常に乳母と子供の親密が增すと同時に母親の愛が乳母に取られて仕舞ふ。それで乳を飲ませると云ふことは、一方では親子の間に於ての愛情の關係を非常に親密にする動機ではないかと思ふ。乳を飲ますと云ふことがなかつたならば其子供に對する愛と云ふものが無い。乳を飲ますことは飲まされた者との間が親密になる。若も自分の乳を子供に飲まして育てゝ大きくした場合であるならば、何時迄も子供は親を思ふて互ひに親密の度が增す。如何に大きくなつても乳を與へられたことは思ひ出されて何時迄も親密に一家の平和を保ち圓滿を期することが出來る。斯う云ふ風に母乳を與ふることは非常な有益なことである。又立派なことである。

併しながら必ず母乳を與へなければならぬと云うても母親に乳が無かつたならば必ず乳母に由らなければならぬ。乳母の乳を飲ませるならば乳母は十分に體格を檢査し、自分が二ヶ月前に產んだのならば乳母も亦二ヶ月前に產んだ乳母を撰ばなければならぬ。年齡の上に於ても自分に近い年齡でなければならぬさう云ふ風に種々の點から觀察して是ならば宜からうと云ふ所で始めて雇はなければならぬ。唯だ無闇に乳母があつたからと云うて雇つたならば濃度が違つて惡い結果に陷る。茲に一寸附加へて置きたいのは母乳の分泌する場合に於て何う云ふことが乳汁の

分泌に影響するか。それは第一は斯う云ふことである。乳汁の分泌する時代に下痢をすれば其時から乳汁の分泌を停止する傾きがある。乳汁を分泌する場合には下痢を注意しなければならぬ。次に熱性の疾患は非常に變化を及ぼすものでありますから其場合は嬰兒に影響を及ぼす。又精神感動も乳汁の分泌に關係をするものでありまして、非常に怒つたり何かすると乳汁の分泌を忽ち閉止する場合がある。それでありますから精神感動と云ふことは乳汁の分泌に大影響があるものであると云ふことをお考になつて置いた方が宜からうと思ふ。

以上述べました如く乳房は婦人に取つて大切なる機能の一つであつて、此機能を完全に經過せしめなければなりませぬが、此母乳を與ふることに付て何の邊迄影響が來るものであるか。先刻申上げました通り、母乳を飮ませると云ふことは親子の間の愛情を厚くする傾きを持つて居るものであります、母乳を與ふることは、つまり非常に一家の平和を保つ上に功がある。西洋では由來個人主義を取つて居る。子供を育てるにしても成るべく自分の手數の掛らないやうにする。成るべく牛乳を以て育てる。さうして或年齡に達すると學校へ遣る。成るべく自分の方の手を掛けない。さう／＼或年齡に達すると親は親で生活をし子は子で生活をする、自分は自分、子供は子供と云ふやうになつて居るのが今日の歐洲の風であります。即ち個人主義であります。翻つて我國の狀態を見ると、我國は元來家族主義の國であります、自分の祖先を非常に尊ぶ國であります。自分の祖先を尊ぶと共に子孫を出來るだけ繁昌させやうと云ふ考を持つて居る。それでありますから子供を育てる上に於ても自ら之を育て、而して面倒を見てやるさうして自らそれに對して十分な愉快を與へて十分な教育を與へて、而して一人前の人間にさせるのであります。さうして何時迄も子であり何時迄も親であるとして互ひに親密を重ねて一家の平和を保つやうになつて居るのであります。是が我國の家族主義

の實に立派な所であります。斯う云ふ風に彼は個人主義を取つて居り我は家族主義を取つて居るので、互ひに其徑路を履んだ結果として今日は外國の人も日本の家族主義と云ふものが非常に樂しいものである。愉快なものであると云ふことを考へて漸次それに近づくやうになつて來たのは吾々に取つて愉快なことであります。此日本の家族主義と云ふものは何う云ふ所から來たものであらうか。是には色々說もありますが、併し私は之を日本の古來の習慣から母乳を以て嬰兒を育てると云ふ習慣が今日の習慣を形造つたものではないかと思ふ。若も此母乳を以て嬰兒を育てると云ふことがなかつたならば遂には其親子の愛情が薄くなつて仕舞つて、遂には大きくなつても互ひの親密が薄くなつて來るやうな傾きがある。それであるから母乳を以て嬰兒を育てると云ふことは道理の上、其乳房其ものゝ生理的の上から來たのみならず、日本の家族主義と云ふことの關係に付て母乳をやつたことが與つて力あるものであらうと思ふのであります。それでありますから何うぞ母乳の必要なることをお考になつて、さうして乳房が如何に婦人に取つて必要なものであるかと云ふことをお考になつて、此乳房の機能の經過をして圓滿に通るやうに力められむことを希望するのでございます。

叢談

寒氣か人體に及ぼす影響

人間の體溫の最下低はいろ〳〵にして、一概に申すことは出來ませぬ、これは、年齡、性、寒氣の度、習慣強固等に關係するからであります。體溫の下降が、劇しくなく且永く持續することもなく、溫の放散と、溫の發生との間に調和が保たれて居る以上は、甚だしく健康の障碍を受けるものではありませぬ。

吾等は體溫の低下をふせぐために、そして身體の抵抗力を强くするために、衣服を用ひ、榮養を攝取します。卽ち衣服の爲めに體溫の放散を少なくし、よき榮養物によりて體溫の發生を盛にするからであります。

寒さが强くなると、呼吸の數が減じて深くなる、そして心臟の作用が强くなり、皮膚の血管は縮まる爲めに、皮膚呼吸は減弱し、食慾は進み、消化の力も强くなります。血液の循環は、內臟に於て盛となり、水蒸氣が、肺及び皮膚から放散することは、減少します、その代り、尿の方から放散するのが增して參ります。同時に筋肉作用も增加し、注意力も精密となり、精神的作業も活潑になつて參ります。

若し濕り勝ちの寒さであると、それのために健康上害を釀し易くなります。肺から水分の蒸發することは素より障碍をうけるし、そのために血液循環も妨げられ、皮膚呼吸も大に減弱してしまひます。ロイマチスの如き病氣は、濕り勝ちの寒さのときに起ることが多くあります、下痢及び肺の病氣も起り易く、老人の喘息も斯かる場合に起つたり又增惡します。

寒氣が極めて强く且つこれが永く續く場合に於ても矢張惡い影響を受けます、雪中行軍等に於て、この强寒の爲めに死亡するものあることは、屢々耳にするところであります。この場合は寒さの爲めに凍死するのであります、すなはち筋肉の作用も、寒さのために痲痺してしまうのである、若し强寒に際し、寢込んでしまうと、それが遂には永眠になつてしまひます、寒さのために凍ゆるとも決して眠つてはなりませぬ。

住宅に居ても寒氣强ければ、不快である、そこで人工的にいろ／＼の溫暖法を設けて、寒さを防禦するやうに致します。併しこれは、人間の健康を妨げるものでは、何の役にも立たぬ、何時でも溫暖法を備ふる際に問題となることは、その度を定めることであります、人により寒さを感ずるの度一ならず、其

他習慣、外界等の關係によつて、これを調節せねばなりませぬ。又榮養の種類、衣服の厚薄、仕事の種類等によつても、それぞれがちひます。起きて居る間は、衣服を著けて居りますから、攝氏の十九度乃至二十度位の室温が最も居心地がよろしい。

若し寒くて震ふやうになれば、それは寒さが身體に害を及ぼす徴であるから、直ぐに其温度を調節せねばなりませぬ。

體操室或は工場の様なところで、筋肉の働作を要する所では、温度は割合に低い方がよろしい、けれども精神的の仕事をする人、老人又小兒の室はこれよりも温度が強くなければなりませぬ。

小兒や老人は、温度の低下に對し害をうけ易いものであります。又假かに温度が下る場合も、壯年のものに比すれば、寒さを感ずることは強い。

病室の温度は、これまた大に注意を要することがらである。熱性病者は、低温にして（攝氏十度乃至十五度）置き、此際一室内の温度が劇しく變化してはなりませぬから、強い風を入れるやうのことのないやうに注意がいります。全快に近い人々には、攝氏十八度乃至二十度位がよろしい。

瓦斯のお話

今日は一寸瓦斯の御話を致さうと思ひます。一概に瓦斯と申しますと、學者の方では澤山の者の事を考へます、空氣も瓦斯であれば、水蒸氣も瓦斯である、酸素瓦斯、窒素瓦斯は、地球の空氣の成分でありますし、水素瓦斯は太陽の空氣の一成分であります。人が呼吸をするのは、空氣中の酸素を、肺から血液の中へ取り入れて、體内で出來た炭酸瓦斯を、血液から肺臓の中へ、肺臓から呼出氣と共に、空氣中へ吐き出す作用でございます。此外縁日などへ行つて見ますと、大變明るい光を放つて燃えてゐる「アセチリン」と云ふ者も瓦斯の一つです。一般に學者側で瓦斯と申しますのは、凡て極つた形のない、氣の

様な者、則氣體の事で、全體で百種近くも有りませうか。

そこで今日申上げるのは、學者の申す瓦斯の事ではない。普通に云ふ瓦斯、瓦斯燈の瓦斯、勝手の炊事用の瓦斯、則瓦斯會社で賣つて呉れる瓦斯の事で御座います。

御承知の通り勝手向の瓦斯と瓦斯燈の瓦斯とは、別に種類の違つた者ではありません。同種類の瓦斯が、ある法によつては白く光つて光明の本となり、或法によつては、澤山に熱を出して、煮炊の用を便ずる様になるのであります。則唯燃やせば、勝手向の炎と同様な奴――無色焔――上へ「瓦斯マントル」を被せると、之が強度に熱せられて、光明を放つ。瓦斯自身の明るくなるのではありません、瓦斯マントルが、白くなるまで熱せられて、其爲に光を放つのですから、之を白熱燈と申します。又八百屋の店前などへ行きますと、マントルが無しでも、大變明るい瓦斯燈がありますが、あれは何うした譯かと申しますと。あれは瓦斯自身が白光を放射するので御座います。ですから此方は白色焔と申します。

箇様に無色焔、白色焔及び白熱燈などに應用せられる燈用瓦斯は、一體どうして作るかと申しますと、理屈は極めて造作もない。則ち石炭をば大きな鐵の釜へ入れて蒸し燒きをするんです。此時出て來る瓦斯を清洗したものが燈用瓦斯で、釜の中へ殘る滓が所謂「コークス」です。

夫では石炭瓦斯と云ふのは一體何んな者であるか、何ういふ成分の者であるかと、聞いて見たくなります。

石炭瓦斯則燈用瓦斯は、第一無色の瓦斯である。第二に惡い臭がする、第三に之を燃やせば、或は無色の焔となり、或は白色の焔となる。第四に燃える時は大變な熱を出す、攝氏の寒暖計、則醫者が體溫を計る寒暖計で計つて見ますと、白色焔は凡そ千度位で、無色焔は千二三百度位になるそうです。室内寒暖計、則華氏寒暖計で計れば何れも二千度あと先

になる。何れにしても炭火（普通攝氏七八百度位）などよりは、遙に溫度の高い、熱の強い者で御座います。ですから氣を附けなければならぬ事は、瓦斯の火に金の茶釜や、銀の鍋をかけますと、中に水分が澤山ある内は宜しいが、若し少くなると、鍋釜が熔けて孔があく。水分が澤山あつても、何うしても炭火より早く痛みます。鐵や銅の器なら熔ける心配はありませんが、夫にしても早く痛むのは矢張り同樣で御座います。

第五に燈用瓦斯は頗る毒である。第六に空氣より輕い、第七に水に溶けない。まだ數ひ立てれば切りもないが、普通に大切な性質はざつとこんな者であります。

次に成分の大體を申しますと、燈用瓦斯は決して一種の者ではありません。色々な瓦斯が互に混合した者で、之をかさで分けて見ますと、一石の瓦斯は凡そ次の割合にませ合さつた譯に成ます。

一水素	四九・六
二沼氣	二九・八
三酸化炭素瓦斯	九・六
四エチレン瓦斯及び其他	五・〇
五炭酸瓦斯	二・七
六窒素	二・六
七ベンヂン蒸氣	〇・七
合計	一〇〇升

箇樣に百分比例を作つて見て、此内で燃えて主に熱を出す者は何かと申すと、夫れは水素と沼氣の二つであります。だから白熱燈の光明は、矢張り此二つの爲に發生する事になる。又白色焰の光は、主にエチレン瓦斯及び其他と「ベンヂン」蒸氣が燃える時に出る次第であります。「エチレン」は「アセチレン」によく似た瓦斯で「アセチレン」の火が明い事は前にも申し上げました。「ベンヂン」が光明を放つて燃える事は、「ベンヂン」、若くは揮發油を、ほんの少し御小皿へ取つて、火をつけて御覽になればぢきに御わかりになります。澤山の者へ點火すると危險です。

同じ道理で揮發油を火鉢の側や、勝手や、らんぷのそばに置くのは頗る禁物です。石油や、「アルコール」より尚火が遷入やすいから、平常注意しなければなりません。

惡い臭のするのは「ベンチン」も「エチレン」も勿論臭は致しますが、瓦斯の匂はまだ外の、上には書いてない、極めて少量の交り者の爲めです。「エチレン」や「ベンチン」は割に臭が弱いから、瓦斯中にある位の分量では、大して匂ふ程の事はありません。

最後に有毒なのは、重に一酸化炭素瓦斯と「エチレン」でありまして、少し嗅いでも直き胸がわるくなり、澤山かげば死んで仕舞ふのは、つまり此兩瓦斯の働です。ですからして瓦斯の毒な成分と臭の成分とは全く別の者である。併し兩方共、同一の瓦斯に含まれてをる故、若し往來でも何處でも瓦斯の臭がしたら、成べく嗅がない樣にしなければいけません。又瓦斯の七輪へ點火する場合には、成丈け手早くすつかりの瓦斯の出口へ、火を付けて、少しでも燃えない瓦斯を逃さん樣にしなければなりません。十分燃えて仕舞へば毒はないのです。

又瓦斯の火を消す時は、必ず本の方のねぢからねぢる樣に致し、火口へ近い方のねぢを先きへねぢてはなりません。又萬一勝手、或は御座敷で、何處からか瓦斯の泄れる樣な時には、「メートル」の函から、管を傳はつて出口まで、マッチの火か、蠟燭の火で探して見る。少しでも瓦斯の泄れて出る口があれば、直樣其瓦斯に火が移つて。小い焔で燃えつゞけます。其處を厚いゴムの膜か何かで、一時蓋をして、よく縛つて當座の凌ぎに致します。或は「メートル」の所で止めても宜いです。決して鼻で嗅いで、瓦斯の泄口を探してはなりません。たとひ少しづゝでも、長くかげば腎臟炎と申す恐ろしい病氣になるさうです。

燈用瓦斯中の、窒素と、炭酸瓦斯とは、光の爲にも又衛生の爲にも無い方がましの者です。併し大した毒の者ではありません。

瓦斯を何う燃せば、何う云ふわけで、白色焰となり、又何う燃せば、どうして無色焰となるか、又一般に瓦斯が空氣より重いとか、輕いとか、或は瓦斯が水に溶けるとか、溶けぬとか云ふのは、何の事か。などの事柄は、少し面倒臭い理屈に亙りますから、又機會でも有つたら申上げませう。之等の性質の爲に、色々な面白い現象が、此世で行れて居るのです。

お寒さ

時候の挨拶にどうも急にお寒くなりました。いやめつきりお寒くなりまして。まあ私もこの年齢になりますが、こうお寒いことは餘り覺えのないことでムます。左様二十年このかたの寒さと申すことですなど云ふのは毎年聞く所の、版にして置いたやうな言葉でありますが、實際寒さは毎年斯様に感ずるのであります。何故かと申しますに、極僅かづゝ徐々に溫度が低くなつても寒さはそう感ずるものではムいません、急に寒くなつたからこそ初めて寒いと感じたので、これは當前な話である。此の年齢になるが、かう寒いことは覺えなかつたと云ふ、これも所謂この年齢と云ふ六十とか七十になつたからこそ一さう寒さを一層感ずるので、又以て當然のことである。二十年以來の寒さと云ふのも、畢竟するに、人間の癖として、すべて目の前のことが最も激しく感ずるので、去年の寒かつたことは既に忘れて居る、而して昔し或場合に特別に寒いと感じたことがあると、それを夢のやうに思ひ浮べて、どうも彼の時の寒さと云ふたら、などゝ誇大に色をつけて今日の寒さを誇張して挨拶するに過ぎないのであります。

一體寒さを感ずるのは、空氣の溫度、特にその濕度等の關係からして、皮膚より體溫の奪はれるに依て感ずるのでありますが、この體溫の發散に依て、時とすると非常に著しい體溫を奪はれることがありまして、身體で製造する溫量總體の三分一或は半分位までも奪はれることがあります。

人間の身體は誠に巧妙に出來て居りまして、隨分著しい溫度の差にも、別段害を被むることなしに、能く常溫を保つて行けるものであります。彼の、獸の王と稱せられる獅子でも寒國には活きて居られません、此の溫帶にある日本の眞中に來てさへ、人工的に暖かにして置いてもらはなければ、今頃は縮み上つて流石の獸王も如何ともすることが出來ないのであります。之に反して寒國の獸王とも云ふべき逞しき熊公も、印度邊へ出張することになれば、矢張ぐたぐたになるでありませう。然るに人間は太陽を笠に戴く赤道の直下にも生活して居れば南北極の氷の山に迄遊びに出掛るのであります。溫度變化には多少過敏に感じますけれども、暫時にしてその溫度に慣れて仕舞つて、非常に高い溫度にも、極めて低い溫度にも適するやうになるのであります。彼の有名なナンセンと云ふ人は、その北極探險旅行の際に、かなり長い間、その同行者と共に零下四十度乃至五十度の溫度の中に生活して居つたと云ふことであります。

今ナンセン氏の言ふ所を聞くに『人間の感覺の能力は不思議な程變化するもので、私は二十度位の寒氣で、少も風の無い時でも、戸外に出るのはつらかつたが、此處では、五十度の寒氣で而かも風のある時でも餘り寒いと思はぬ。一體人は暖い室の内に坐はつて居る時は、餘り寒氣を恐ろしく考へ過ぎるものであつて、實際は一向恐るゝに足らぬものである。我々一同は何れも元氣である、尤も一二の人は、まゝ風の烈しい時に、稍々遠くまで散歩に出掛けて、寒いと云ふて戻つて來ることもあるが、併しこれは只だ輕裝して、防風衣を著なかつた時だけのことである』と申して居ります。

元來この暑い寒いも比較の上のことで、同じ溫度であつても、或時は非常に、暑いやうに感じ、又或時は甚しく寒いやうに感ずることのあるは、何人も御承知のことゝ存じますが、例へば善く出來て居る窖であります。夏でも冬でも殆ど同一の溫度を

保て居るものであります。然るに夏窖に這入つて見ますと非常に涼しい、冬は又思の外快よく、温度の穏かに感せられるものであります。

此の世の中に活きて居つて、小言や不平を竝べ立てた日には際限のないことであります、暑氣は實際寒氣よりも凌ぎにくい、尤も經濟上から云へば顛倒することになりませうが、寒氣に對しては幾らも方法がある。先づ衣服を澤山著てもよし、室を能く閉ぢ籠めてもよし、又十分食物を喰べ、火を焚く等種々の方法を應用することが出來るのであります。然るに此等の用意が無い時に、氣温が急に降る場合には、著しく體温を奪はれることになる。所謂凍えるのであります。

凍えるのは一局部のこともあり、又全身の凍えることもありまして、その一局部の凍えるのは、著物を以て十分被はれて居ない部分、卽ち耳、鼻、手及足等でありますが、全身が凍えることになれば、初めは慄へますが、漸次身體が倦怠くなり、力が弛んで、脈は弱くなり、呼吸は緩慢になり、筋肉も神經も麻痺し、血液は凝滞し、固有の體温が下降して、遂に死に至るのであります。

凍冷は如何にして之を防ぐべきか、生活機能の温度の調節を保ち、甚しき體温の放出を防ぐ方法如何と云ふやうなことは、殊更仰々しく説明するにも及ばぬ、誰も知つて居ることで前にも述べた様な事に過ぎないから、それを十分に實行すれば、それで澤山な譯であります。

低温の有害作用は、凍冷よりも、寧ろ所謂感冒に罹ることで、これが實に頻繁である。併し感冒と云ふのは、固有の疾病ではなく、只これが四百四病の下地となる、卽ち誘因となるので、氣をつけねばならぬのであります。尤も感冒に罹るのは、只氣温が低いから罹ると云ふものではありません。前にもお話しました北極旅行家などは、零下五十度位の寒さの中にも何の事なしに平氣で生活して居たのです。然し人間の身體は温度の變化に對して、ひどく感ずる

のでありまして、急に氣溫が降る場合には、其影響を被むつて、殆ど常に感冒に罹るのであります。それで寒氣に對しては、別に恐るゝに足らぬが、その溫度の急劇に變化する時に身に害を受けるのでありますから、朝晩、殊に衣服を著更へる時又、外出する時などに注意しないと容易に害を被むるのであります。倘ほ一つ大切なことは、氣の持ちやうです。寒さを恐れて縮み上つては、心から寒い。外が霜柱のチャリ〳〵する時でも、腹に力を入れて、寒さに負けぬ氣で歩き出すならば、容易に寒さに冒されるものではありません。よく例に出されることでありますが、實際圊厠に行つて風を引くと云ふことは頗る稀であります。これは畢竟只今申した樣な覺悟と身構になつて居るからです。又或人が寒中、船頭の赤裸で船を漕ぐのを見て、どうも恐ろしい勢だ、それでお前は寒くないかと問ふた所が『なあに、あなた、身體中面だと思へや同じ事でさーね』と云ふたさうです。斯樣に考へて運動をするならば、實際寒中裸でも凌げぬことはない、況やチルの下著に二枚も三枚も綿入を重ね、その上に羽織を著て、又コート襟卷、足袋、手袋、これで寒いの、風を引くのと云ふは、一つの習慣、一つは全く臆病で、自ら寒さに負けて、いぢけて居るからのことであります。宜しく『身體中面』と云ふ位の覺悟で寒氣に對すべきであります。

鼻の話（承前）

以上述べました通り、鼻の病氣は鼻ばかりでなく、ひいては呼吸器、消化器の病氣の基となり殊に腦症狀を起すものでありますが、又一方には其近邊にある耳眼等と、密接なる關係を有して居ります。

鼻と耳と

は解剖學上極く密接な關係をもつて居ります、即ち鼻の奥には歐氏管といふ細い管が開いて居りまして此管を傳はりて中に行けば僅か一寸ばかりで、耳の

鼓膜の背面にあたつて居る中耳といふ所に達します此管は空氣が鼻から耳へ通ふ管でありまして、之れによりて鼓膜の緊張を常に一定に保つて置き、外界にある音に伴ふて振動する事が出來るのであります、若し、中耳内の空氣が過多或は過少であつた時には、此鼓膜の振動は不規則となりまして、音を正確に聞く事が出來なくなるのであります。

「くさめ」をする時に時として突然耳が塞がつた樣に感ずる事は諸姉も御經驗なされて御出の事でせう、之れは空氣が過剩に中耳に進入した爲め鼓膜が緊張した爲めであります、此時唾を嚥み込む時は空氣は出で去る故、耳が開いた樣な感を致します。

又鼻を指にてつまみ、うんとりきむ時は、耳の中で、ぶすつといふ音が致します、此れも鼻の中より空氣が中耳の方へ進入した時の音であります、鼻が健康である時は歐氏管は空氣が通行する丈けでありますが鼻が病的である時は

歐氏管は病氣の媒介をなします

即ち風邪にかゝり、鼻粘膜は一般に充血して鼻汁が多くなつて居る時には、此不潔な、澤山の黴菌を含んで居る鼻汁は、嚥み込む運動をなす際に開口する歐氏管を傳はりて中耳に侵入する事が有ります、然る時は其中の黴菌は中耳の中で盛に繁殖して、急性中耳炎を起すものであります。

中耳炎

とは中耳即ち鼓膜の内側に膿を生ずるものでありまして、急に起つたものは多くはげしき痛が先だち次で寒け發熱が起り、二三日の後には膿が鼓膜を破つて外に流出すると共に熱もなくなり、痛も輕快するものであります、併し、其の後にも膿の流出は長く止みませんで、療治を怠る時は數年數十年或は一生「みゝだれ」を患ふるに至ります、此中耳炎の原因は大半急性の鼻カタール即ち感冒に因するものであります。

中耳カタール

又中耳炎の外に中耳カタールと申す病氣がありま

す、此れは耳が次第々々に遠くなり、耳鳴りが起る病氣でありますが、之れも亦屢ゝ鼻の疾患に續で發生する事が多いものであります、殊に小兒が耳漏なくして耳が遠くなる事を訴へますならば、此れは多く中耳カタールで、アデノイド増殖症か或は扁桃腺肥大に原因するものでありまして、其の手術と共に耳は著しく良くなるものが普通であります。

其他肥厚性鼻炎とか鼻茸とかゞ發生した時は、其等のものが歐氏管開口部を壓迫致しまして、中耳の中の空氣の出入が斷たれてしまいます、其の爲め耳は塞がつて居るやうな感じがし、多少聞えがあしくなります、そしてたえず耳鳴りがありまして、患者はうるさくて堪えられぬ事もあります。

其他結核の樣な鼻の病氣が、歐氏管を傳はりて耳に傳染する事もありますし、之に反して耳の病氣が鼻や咽の方へ廣がる事もあります。

眼と鼻

は外から見ては何の關係もない樣に見えますが鼻腔内から見ると此兩者は障子一重で隣相つて居る樣なものであります、即ち眼球は四面骨で圍まれて居る眼窩といふ所の中にありますが、此眼窩の下壁をなして居る骨は、丁度鼻腔及副鼻腔の天井に當つて居りまして、甚だ薄いばかりか、時としては骨が缺けて居る事があります、でありますから、眼窩内の病氣と鼻腔内の病氣とは互に交通し得るのであります。

殊に副鼻腔の蓄膿症が甚しくなつた時には其の膿が天井を破つて眼窩内に破れて、其神經を冒し、眼の痛みを起し、又視力障碍を起す事があります。

即ち眼がかすんだり、遠い所が見えなくなつたり或はトリメとなつたり致します、更に甚しくなりますれば遂に眼窩全體が化膿して、其眼は全くつぶれてしまふに至ります。

以上の樣な蓄膿症でない、他の病氣でも眼がかすむといふ樣な視力障碍を起す事も少くありません、猶又眼球の後の方が腫れた爲めに眼球が尋常の人よ

りも飛びだす事があります。

涙の通る管

は又眼から鼻へぬけて居ります、人の眼は常に涙を以て洗はれて居るもので眼に塵がはいれば涙は之れを流しやる能をもつて居ります、そして其の涙は更に上下の眼瞼の内端にある小さな孔の中にはいります、此の孔こそ涙が鼻へぬける涙管といふ隧道の入口でありまして、絶えず眼球を洗つて居る涙は此所より鼻へ流れ込むのであります、之れあるため通常涙が眼から外に溢れ出す事がありません、泣く時に出るのは通常の時よりも多くて、全部が管を通る事が出來ない爲めであります、泣く時涙が眼からあふるゝ以前に、水鼻が出るのは、實は涙が此涙管を通つて鼻から出たのであります。

涙管が閉塞する時

涙は鼻の方へぬける事が出來ないからして泣かぬ時でも眼瞼の外へ溢れ出る樣になります、それ故肥厚性鼻炎とか鼻茸とかゝ鼻腔を滿たして居る時は此涙管の口も塞がれまして、從つて涙が絶えず眼から出て居る樣になります、其結果眼瞼及其周圍は糜爛し睫毛も損せられ或は枯死して、慢性の眼病となります。

之に反して眼の病氣も亦涙管を傳はりて鼻の病氣を起します、殊に風眼として世に知られて居る所の、淋疾性膿漏眼の時は、淋病の病毒が涙管を傳はりて鼻に達し、此所にも眼におけると同樣に激しい炎症を起し、盛に濃厚な膿を分泌するに至ります、此膿は眼と同樣に多數の淋毒を含有して居りますから、其傳染の危險は頗る大なるものであります、此の淋毒性鼻病は成人にはあまりありませんが、小兒殊に生れて數日後の赤兒に比較的多く見るものでありまして、其原因は母の淋毒が產の時、眼に入りたる爲めであるものが最も多いのであります。

(以下次號)

育兒

遺尿症

遺尿症と云ふのは、寐濡卽ち寢小便のことであります。これは隨分多いもので、殊に冬分になると、親も子も難義なものでありますから、この事を一つ御話致さうと存じますが、先づ通常の尿の排泄方からお話致して參ります。

尿の排泄、卽ち小便をしますのは、一部分は反射的の働、卽ち水をかけられると、思はず首をすくめると云ふやうな調子で起りますが、一部分は意識的に卽ち自分で承知して居つて、出さうと思ふて出すのであります。尿は何人も御承知の通り、腹の中で、脊骨の兩側にある、蠶豆形の、腎臟と云ふ臟器で製造されるのですが、これが尿の溜池たる膀胱に來て溜まります。この溜池と水源、否、流したる腎臟とを繫いで居るのは、輸尿管と云ふ水道であります。それで一定量の尿が、この輸尿管から膀胱へ參りますと、その壓に依て、膀胱の粘膜にある感覺神經の末梢を刺戟致します。さうしますと、この刺戟が脊髓にある一定の細胞に傳はりまして、此處から又膀胱の方へ行つて居る神經と筋肉にそれが響いて參ります。この神經の刺戟に依つて、膀胱の筋肉は收縮し、括約筋と云ふしめくゝりは緩むのであります。但しこれは別に意識を要することでありません。

赤坊では、この排尿作用は全く反射的に起るのでありますが、大人でも病氣に因て、往々不隨意に褥を濡らすことがあります。又人事不省に陷つてる人、卽ち氣を失つてる病人では、知らずに排尿致します、所謂垂流と云ふ有樣になります。併し無病の人に於きましては、膀胱が滿ちて參りますと、同時に腦髓の方に報告がある。さうしますとこれに依て排尿の催促が來るのであります。そこで愈〻この催促が嚴

しくなれば、排尿しなければならぬことになるのであります。而して若し努めて勢よく排尿しやうとするときには、腹部の筋肉を緊張させて、膀胱の壓を高めることゝなるのであります。男子の排尿は、これよりも稍ゝ複雜になつて居りますが、大體の順序はこれで解かります。

扨てこの排尿の反射作用は、種々の病氣に依て妨げられます、乃はち或場合に於ては、膀胱が相應に充ちても尿意の起らぬことがあります。健全な人であれば、反射作用に依て膀胱の不隨意收縮筋が働きかけても、これを閉づる所の隨意の收縮筋が、倘ほ骨盤の底にある筋肉の助に依りまして、能く耐へて、適當の時に排尿することが出來るのでありますが、只今申すやうな病人になりますと、膀胱が充滿して參りますと。その反射作用で直ちに排尿するのであります、それは何んな病氣かと申しますと、精神病、痴呆狀態、又諸種の脊髓病等でありますが、幼弱の小兒に於ては、これは通常のことでありまして、小兒は尿の出るのが餘り能く解からぬかのやうに思はれます。

扨て小兒が尿意の起つた時に、直ぐ排尿せずに、これを告げ知らせて、尿器を持て來る迄、能く耐へるやうになるのは何時かと申しますと、これは實に種々でありまして、小兒の教育、その養育法が大に關係致します。初めから、襁褓が濡れると直ちに、乾いたものと交換るやうにして育てれば、濡れた襁褓に包まれて居るのが不快ですから、自然、濡れたまゝで不潔にして置く小兒よりも、早く尿を耐らへ、又告げるやうになるものであります。それで、小兒は早くから、一定の時間を定めて排尿さするが良策である。即ち寢かす前には必ず尿器に排尿させて、よく言ひ聞かすのであります。數週間も斯樣に勉めますならば、その報酬は大なるもので、將來小兒は、何時も淸潔になつて居るだらうと思ひます。

かういふ風にして育てましても、二歳或は三歳になつて、倘ほ失策をすることがあります。併しこれも

別に驚くに足りません。矢張よく言ひきかせて、しくぢりせぬやうに、柔和な言葉を以て戒める。但し苦々しくこれを叱り立てゝ、嚴しく罰するやうなことは決して爲てはなりません。これが爲に、小兒の身體にも、特に精神上にも、甚しい害を及ぼすことになります。不良少年には、夜尿症が多いと申されて居りますが、これは元來身體が虚弱で、或は腦其他の神經系に異常があつて、其爲に惡いことをするやうにもなり、其の異常が同時に又夜尿の原因ともなつて居りませうが、自分は故意にするのではない、全く病氣の爲に知らずして遺尿するのに、それに少しも同情なく、徒らに叱られ、罰せられ、或は辱しめられると云ふ所から、初めは自ら耻ち、努めて治さうとするが出來ない、それから遂に虚言をつき、人を怨み、自暴自棄になつて、漸次自ら進で惡い事をすると云ふやうな、性質の僻んだ不良少年となるまいものでもありません。

それで一、二歳の間は仕方がないが、既に三歳以上になつても、蓐を濡らす場合には、醫師に就いて、此惡習慣の原因を篤と調べてもらふことが是非必要であります。小兒が遺尿する時には、全く膀胱の空虚になる迄排尿するものでありますけれども、往々寢入ると直ぐに遺尿するものがある、斯樣な場合には、一夜の中に幾度も牀を濡らすことになりますが、他の場合には、睡眠の終卽ち曉方になつてから不隨意的排尿をするものもあります。

この惡癖は外觀上、全く健康な小兒に來ることもありまして、何等病氣としての原因を見出すことの出來ない、場合も澤山あります。たゞ大抵、貧血して神經質であると云ふやうな小兒に多い。併し又この病氣を起すべき一定の原因が認めらるゝことがある。例へば男の兒では尿道の尖端の方が餘り狹い爲に、其刺戟が生殖器から膀胱の方に傳はつて起るとか、又腹水、尿道加答兒、便秘などが遺尿の原因となつて居ることがあり、女の兒では蟯蟲、膣加答兒、陰部の濕疹などに依てこの症狀を來すことが

あります。又神經質の過敏な小兒でありますれば、何ぞ強く興奮するやうな事があつた時だけ、折々遺尿の起ることがあります。又多數の小兒は、旅行するとか、他家を訪問するとか、凡て周圍の變つた所に行つて、異つた新しい寢牀に寢ますと、よく牀を濡すものであります。尚ほ一つこの原因に就いて注意しなければならぬことは、手淫でありまして、一年間以上も全く遺尿が無かつたものが、發育の時期に於て突然再び起るやうな場合には、特にこれを注意しなければなりません。併し稍〻年長の兒童では、鼻咽腔の所謂腺腫樣增殖と云ふものが、この原因となることがありまして、此場合には、その病氣の療治をすれば、從つて遺尿も自然に治癒ると云ふ譯であります。

小兒の寢小便は、大抵年齡の進むと共に、自然に治癒るもので、春氣發動期後までも續くことは甚だ稀であります。

この寢小便を癒ほさうとするには、先づよく其原因を調べて、出來得るだけそれを除くことが第一であります。而して別段原因として認むべきものがない時には、盛に全身を強壯にする方法を講じて、筋肉の薄弱、貧血等を治ほすことに勉め、適當に冷水摩擦を行ふとか、鐵劑の內服をするとか、醫師の指圖を受けなければならぬ。飲食物は、凡て刺戟性のものを避ける、例へば藥味類、酒類、餘り鹹辛き食物等を禁じ、尚ほ水を節減するやうにする。それから夜寢る前には必ず排尿させる。又大抵の小兒は夜間一回づゝ小便に起して良い。但し貧血性の小兒であれば、小便に起しても、其後また直ちに眠るやうならば善いけれども、一旦起せば、なか〳〵眠らぬと云ふやうな場合には、これは見合はした方が宜い。療法としては、其場合〳〵に依て、內服藥で治癒することもあり、又一種の按摩法、特に電氣療法の效があることもあり、又脊髓に注射をして、頑固の寢小便が忽ち全治することもあり、或は催眠術や灸でも治癒することがありますけれども、此等の方法は

醫師に一任しなければなりません。只前に申述べた注意の外に、夕飯を少し早くし、寢る前に餘り湯茶を飲まさぬやうに、又果物を與へぬやうにし、牀の腰の處に何か物を入れて、臀部が高くなるやうにして平臥させ、眠つてから一二時間經つて、喚起して排尿させることは、試むべきであります。尙ほ遺尿は、多く仰臥して居る時にするからして、小兒を側臥せしむる目的で、腹帶又は寢卷の紐をわざと脊骨に當るやうに固く結んで、背臥すれば痛むから、自然側臥する、これで以て餘程寢小便を防ぐことが出來ると云ふた人もあります。又寢る時に、肘の所に五十匁から百匁位の重量の物を懸けるが良いなどゝ云ふ人もあります。何れも臨機應變ですから、これも御參考までに申添えます。

子供の知惠

其の一

昔し孔子樣が散歩に出られた時に、十歳許の小兒が二人で喧嘩をしてをるのを御覽せられて「これ〳〵御前達は何をいさかひをしてゐるのか」と、尋ねられました。

一人の兒が申すには『僕は、御天道樣は、日中の方が近くにあると思ふ。その譯は、朝の中は、日向へ出ても大變冷々とするが、日中になると、御風呂へでも這入た樣に暖かになる。之で見れば、日中には、御天道が近く來るに違はない、夫れを此奴が間違だと云ふんだ』と申しました。

もう一人の兒が云ひますには『私は曉方の方が大きいんだと思ひます、だつて日中に見れば、御茶碗位の大さしかないのに、日の出には金盥位あるんですもの』と云ひました。

孔子樣も裁判に困つて、悄く茫然として立つて居られましたら、しまいに二人の兒が口を揃えて『聖人つて者は割に何も知らないもんだなあ』。

その二

之は列子と申す書物にある寓言ですが、實際は何歳位から、子供が大人びた考を持つ者でしやうか。恐れ多い御話ですが、眉輪王は七歳の時、父の讎と思ふて帝を打ち奉り、菅丞相は四歳計りの時、既に梅花の詩を作られたと申します。清小納言が「大江山いくのの道の」と詠んだのも、やはり幼小の間の事、鎮西八郎が鎮西九國を打従えたのも、十三歳から、十五六歳までの間の事です。

六條判官源爲義は、生年十三にして武藏の大藏ケ谷に、叔父帶刀先生義賢を討ち、木曾の駒王（後ち源義仲）鞍馬の遮那王（後ち九郎義經）は、共に十歳前からして、明らかに武將の氣慨を表はしてをります。

楠正行が湊川の生別は十一の時、上杉謙信が北越に旗擧をしたのは十四の年、福島正則は、赤ん坊の頃に餘り惡戯をしたもんですから、御母さんが大きな石臼に結ひ付ておいた相です。夫は丁度數へ年三つの時でしたが、十貫目近くの石臼を、する〳〵引ずつて矢張りわるさをしました相です。

白石先生が、毎日千字づゝ御手習をしたと云ふ有名な話は、たしか五つの時の事だつたと思ひます。

その三

伯翳は七歳にして、帝舜の師となつたと云ふ様な御話は、八犬傳に澤山並べてありますが、之は少し出所が怪しいとして、甘羅は十三歳で秦王の爲に縱横の策を畫し、西晉の王夷甫は、襁褓の中で、既に山濤を感歎させたとあります。同じく東晉の肅宗明皇帝がまだあどないゝと云ふ程の頃長安（今の陝西省西安府）から、時の都建業（今の南京）へはる〳〵使者が來た事が有りました。明帝の御父様で、當時の天子様の元帝が、皇子に長安が近いか、日が近いかと問はれましたら、皇子の御答には「私は長安が近からうと思ひますと」仰せられました。「長安から人が來るといふ話は聞きますが、太陽から來たといふ話は、まだ一度も聞きませんから」と仰せられたといふことであります。

父帝、大に感心遊ばされまして、別の日に群臣を呼び集めて、其話をなされ、又王子に御尋ねになりました。

そうしたら今度は『日の方が近い樣に思はれます』との御答でしたから、元帝も不思議に思召し『夫は又何故か』と、押返して御尋ねなされました。皇子の仰に『左樣でムいます、仰向けば御日樣が見えますが、どうしても長安は見えませんから』とありましたので、元帝が彌〻御感遊はされた相でムいます。

その四

歷山大王は、十計りの頃、御父樣が頻りに勝軍が續くので、大そう不機嫌で、泣いて計り居られました。御附の者が、これ程御芽出度い事はないのに『殿下は何故御泣なさいます』と申しましたら『御父樣が世界中を御取りになつて、私の取る國が無くなりはしないかと、夫が心配故に泣く』と云はれました。

又カルタゴの大將のハンニバルは、生れて漸く百日計りの頃、父ハミルカルが戰の門出に、或る氏神樣へ連れて行つて、私は今日羅馬の國と戰に行く。萬一不幸にして私が志を遂げなかつたら、御前は必ず此父の遺志を繼いで、敵國羅馬を亡ぼしてくれ」と、返へす〴〵も申含めて、やがて、本より赤ん坊の事ですから、型計りの誓をせさせました。此赤ん坊が成人の後、アフリカのカルタゴから出掛けて、西班牙を征服し、南部佛蘭西を取りアルプス連山の氷河を蹈んで、伊太利亞の野を北の果から南の果まで蹂躪り、バルカン半嶋の諸王國を同盟に入れ、埃及王から軍用金を貰つて一度ならず羅馬國を、滅亡の淵に臨ませた大豪傑です。

その五

天竺の御釋迦樣は、摩耶夫人の左脇側から生るゝと、すぐ前へ七歩行いて、兩方の手で天地を指さして、天上天下唯我獨尊と獅子吼せられたとかいてあります。又バプテズマのヨハネハ、母の胎に宿つて滿六ケ月の時、イエス、キリストが孕まれたと聞いて、母胎の中で踴躍歡喜したとあります。

之等が早熟の最上乘たる者でしやう。

家庭衛生

勝手の道具

題は勝手道具としましたが、極く廣い意味の勝手道具で、何でも勝手にある物品の御話、と云ふ積りで見て頂き度いです。尤も唯道具の御話では、衛生と一向關係が無い事になりますから、次には主に其中で何々は毒だとか、何々は毒でないとかいふ事だけを述べて見やうと思ひます。

勝手道具は、其種類殆千萬もありますが、之を大別して木製、陶磁製、金屬製とに分けることができませう。

木椀の者は大體に於て無毒である。白木の手桶でも御鉢でも、或は漆塗の膳椀でも、乃至は高臺寺風、元祿風の、金紋高蒔繪の器でも、遠慮なくどし／＼使つて決して差支ないです。竹の柄杓も宜しい、象牙の箸も宜しい、昔し、もろこしの襄子といふ君は、敵國の君智伯を斬つて、其頭蓋骨に漆を塗つて、盃代りに使つたとあります、其爲め淨瑠璃の辨慶上使にもある通り、智伯の舊臣の豫讓に、あけくれ讐を附け覘はれたのです。此盃も道徳上からは如何だか知りませんが、衛生上に於ては別に害が無からうかと思ひます。

次には陶磁器。之はなべて東京では瀬戸物と申します。此瀬戸も大體に於てまづ難がない。しかし俗にいふ瀬戸引鍋、瀬戸引茶碗、瀬戸引皿などの瀬戸は、普通の茶碗、皿の上藥とは、少し組成の違ふものであつて、此方は場合によると毒になる奴もあります、では何う云ふのが毒になるかと申すと、瀬戸引のせとはもと鉛と砂とから作る、其時鉛の分量が若し不適當に多過ぎると、之が毒になります。又鉛の中には普通極些しながら砒素が交つて居る、此砒素も稍

多いと毒になります。殊に酸味の物、鹽氣の強い者を、こういふ鍋で煮る時は、其危險が猶多い。だから念には念を入れ樣と思へば、瀬戸引鍋を買つて來たら、直樣酢を一二合計り入れて、トロトロ火で二三時間煮立せて、ある丈の毒をすつかり煮出すのです。そうして其酢を捨てゝ仕舞ふのです。そうすればあとは殆無害の器になります。

次に金屬の器、金屬の器は澤山ある。火に掛ける者は大概金屬ですが、其外の者でも例へば水道の鉛の管、鑵詰のブリキ板、トタンのバケツ、アルミの辨當箇、銀の箸、金の盃、數え立てれば殆切りがない位です。しかも之等の器は往々に危險な事がある。則金屬制の者は最毒になり易いです。

金屬器の中でも、或者は單一の物質から成り、又或種類は合金である。試に勝手向の金屬と、金屬制の器の大體を舉げて見ますと、

單一の金屬

一、金（茶釜、盃）

一、銀（箸、茶釜、藥鑵、盃）

一、銅（鍋、銅壺、火鉢のおとし、飯櫃の箍）

一、鐵（鍋、釜、七厘、庖丁、小刀、火箸等、鐵器は最多し）

一、錫（茶壺、匙）

一、ニッケル（石鹼入れ、其外鐵具の鍍金に使ふ）

一、鉛（水道の細管、ガスの細管）

一、アルミニウム（近來は殆凡ての器具を作ります）

一、水銀（鏡の裏）

合金

一、眞鍮（火箸、藥鑵、含嗽茶碗、金盥、豆腐屋の庖丁等、鐵に亞いで廣く使用す）眞鍮は銅と亞鉛との合金です、

一、青銅、（手水鉢、火瓶、瀬田の唐橋の唐金擬寶珠）青銅は銅と錫とで作ります

一、赤銅（煙管）金と銅との合金

一、トタン（金盥、バケツ）アンチモンと亞鉛との合

金

一、アルミ金（指輪、裝飾用）アルミニウムと銅と以上の外、合金と申す譯にも參りませんが、所謂ブリキは、鐵板の上へ薄く錫箔を塗つた者で、藥鑵、柄杓、鑵詰などに使はれます。

之等の金屬の中で金、銀、鐵ニッケル、アルミニウムは殆ど全く無毒です。又錫も大抵は毒になりません。其他の金屬類も其まゝでは多くは害が無い、けれ共若し之等が銹るかどうかして、其金屬を含んだ併も水に溶ける物が出來ますと、夫こそは隨分危險な事に立到るのです。

勿論食器でない者、若くは自家に飲食物と接れない者は、例へば鏡の裏へ塗る水銀とか、瀬多の唐橋の靑銅の擬寶珠とか又は指輪にするアルミニウムは唯平常嘗めない樣にさへしてをれば夫で宜しい。

銅、亞鉛、鉛の樣に、或はそのまゝに、或は合金の成分として、直接間接に飲食物と觸れる者では、稍ともすると間違が出來易い。先年或地方の聯隊で、大勢の兵士が一時に病氣になつた、よく〳〵調べて見ますと、其原因は、炊事掛が飲食物を、トタンのバケッで運搬したからだと知れました。一般に云へば、固體を入れるよりも、液體を入れる方が危ない、唯の水よりも、鹽鹹い物、酢ばい者を入れた時が危ない、冷たい食物を盛つたのより、食物を煮炊した時の方が餘計に毒である。夫れは何故でしよう。

前にも申ました樣に、大概の金屬は其まゝの形では大して毒にはならぬ。尤も銅でも亞鉛でも、或は眞鍮でも、トタンでも、之を吞込めば、無論胃腸の中で少しは溶ける、溶ければ腸から體内に吸收せられて、多少の中毒は必ず起しますが、眞鍮のウガヒ茶碗を食切つたり、赤銅の煙管をくはへ折つたりして飲み込む人もマサカありますまいし、夫れに好しやそう云ふ間違が有つたにしても、例へば小兒が銅貨を吞込んだ場合でも、胃腸の中でその鹽酸や、乳酸に溶かされる事は極く少ない、從て中毒の度も至極輕くて濟む譯です。

けれ共、銅、亞鉛、鉛の類が、豫め何かの作用によつて、水に溶け得る化合物となつた時は、その水溶液が腸へ行けば、殘りなく吸收せられて仕舞ふのです。之等の金屬は凡て酸類に犯され易い、醬油の中には乳酸といふ酸があり、酒類の中には酒石酸だの、乳酸だの、其他色々な酸がある、酢には醋酸が可成澤山に含まれてをります。之等の者を長い間金屬製の器へ入れておくと、其爲に幾分か金屬が變化して、溶け易い物質になつて、僅かづゝ乍ら次第に液中にとけて行きます。此作用は殊に溫度が高ければ早くなる。故に固體よりは液體が、唯の水よりは鹹酸の者が、冷な者よりも煮炊をした方が毒が多い勘定に相成ます。

之で大體どう云ふ種類の金屬、合金が、何故毒になるかをざつと御話しましたから、此次は一々の器に付いて用ゐる時の注意を小々申上げませう。

まづ銅器、眞鍮器は、藥罐なら大した事はないが、藥拵へには成丈使はん方が良いです。もし強いて使ふ時は、必ず內面丈は良く磨いて置かねばなりません。純粹の銅は割に酸にも溶け難いが、銅の銹（則酸化銅）は容易に溶ける。殊に靑銹（則、綠、靑）は最よく溶解します。是故に綠靑の吹いた銅或は眞鍮の食器は、十分に磨かないと飛んだ事が出來ます。小供が銅貨をくはへて遊ぶ事なども、母親は成丈止めさせる樣にして貰い度い者です。

亞鉛は唯の水にも少しは溶ける、酸には甚溶け易い、だからトタンの器に飲食物を入れる事は、間違つても、仕てはなりません。手桶代りに使ふ時も、長く入れて置いた水を呑み食ひの用に供するのは禁物です殊にトタンの柄杓が宜しくないのです。ギラ〳〵の浮いた水では食器の洗滌もしない方がいゝです。

鉛も長い間に少しは水にとける。故に朝起きて汲む御初の水道の水は、すぐ煮炊に使はない樣に、凡そ五六升も捨てたあとのなら差支へはありません。

またブリキに就ても申上げ度い事がある、毒でない

鐵、アルミニウム等につけても御話もありますが、今日は之で御免を被る事にしませう。

凍傷の豫防

今こゝに凍傷と申しますのは、丁度只今頃から老人、小兒、乃至女中さんなどが難義を致す、彼の「ヒヾ」「シモヤケ」、「アカギレ」。去ぬる明治三十七八年の日露戰役に當つて、遠く滿洲の野に出征致して居つた兵士が多く罹つたと云ふ壞疽、即ち手足の一部分が寒冷の爲に死んで、手の指、足の趾、又は耳、鼻などが黑くなつて脫落て仕舞ふもの。尙ほ先年、彼の弘前師團の一隊が、雪中行軍を試みて、八甲田山の麓に、殆ど全滅するに至つた、その恐るべき凍死の事までを一括にして云ふので御座います。

此等大小の變化は、何れも寒冷に因て起る所のものでありますが、今試に兎の耳を、零度以下六度の寒さに曝しますと、一時こゝに貧血が起ります。次に八度まで下りますと、少し耳が腫れて參りますが、復た暫時にして恢復致します。進んで零下十一度になりますと、皮の下に漿液が浸潤だして浮腫で參ります。更に零下十五度に至りますと、特に稍ゝ長い間此の寒氣にあてゝ置きますと、耳は遂に壞疽を起すと云ふことで御座います。これに由て見ますと、熱いと冷たいこそ變はれ、凍傷に依て起る變化も、火傷に依て起る變化も甚だ似寄つたものであります。

身體の中で最も凍傷に罹り易い所は、耳輪、鼻の尖、手足の指趾で、つまり衣服に被覆れて居ない所、且つ血の循りが餘り旺でない部分であります。即ち健康な人であつても、血液の循環の善い處と、比較的惡い處に依て、凍傷に罹り易い處と、罹からない處があるのですから、何ぞ血行に障があれば、一體に凍傷に罹り易いわけであります。それで心臟に病氣がある人、結核などがあつて貧血して居る人、又老人、甚しく酒に酔ふた人などは凍傷し易いのであり

ます。

水は別として、總ての物は寒氣に觸れると縮む。人の身體も寒冷に遇へば、皮膚、筋肉すべて收縮致しますが、特に血管は著しく影響を被つて收縮して細くなります。所が暫く強い寒さに當りますと、今度は反對に弛緩して、餘計に血液が其處へ來るやうになります。これは寒さの爲に、血管を引締める働をする神經が麻痺して仕舞つて、其の結果血管の緩むだ所へ、血液が集まつて來るのであります。これが長く續きますと、其處に變化が起つて、遂に所謂壞疽に陷り、漸次潰れて、其毒が全身にも及ぶこととなりますが、最初寒さの爲に麻痺した時に、速に其部分を摩擦して、手や足はこれを高くして靜脈血の還流を良くするやうに勉めましたならば、斯樣な甚しいことにはならずに濟むのであります。これは身體一部分の話でありますけれども、若し全身が凍えた場合には如何なるかと申しますに、凍えて身體が固まつて仕舞つて、雪の中に二三日位埋まつて居るやうな場合でも、微かに生活機能が營まれて居つて、幸に救はれる時には、尙ほ蘇生することも出來るのでありますが、これは凍えて斃れた後の寒さにも由ることでありまして、益々強く寒氣が加はるやうな時は勿論早く死ぬ。又少しでも運動を續けて居れば、なか〳〵死にません。乃はち靜にして居れば、既に二十度以下の寒冷にも堪へませんけれども、盛に運動します時には、零下四十五六度の寒冷にも能く耐え得るのであります。扨て愈々凍死する時には、何んな風かと申しますと、先づ最初は只ひどく寒いので、それから身體が倦怠くなり、無闇に睡むくなる。元氣を出して步き續けても、蹣跚して步けない。耳も遠くなり、目も暗らむで全く氣を失つて倒れて仕舞ふ、而して遂に心臟が麻痺して死ぬのであります。その未だ死に至らぬ中に救助されたものを見ますに、茫然して居つて、呼んでも返事が確かに出來ない。瞳孔は大きくなり、脈も呼吸も至て緩慢で弱い。斯樣な狀態であつても、直腸內で

計つて體溫が二十度以上もあれば、適當の處置に依て蘇生せしむることが出來ます。併し一旦蘇生しても、又種々の症狀を發して死ぬこともあります」

斯樣な凍死者を發見した時には、如何うすれば宜いかと云ふに、先づ風の當らない、寒むい室に入れて、雪又は冷水を浸した布を以て全身を摩擦する。而して皮膚に血液が循るやうになつたならば、攝氏の十七八度の全身浴を行はしめ、極めて徐々に溫度を高めて、三時間の後に漸く三十度とし、尚ほ臭の烈しいものを嗅がせ、皮膚を刺戟し、人工呼吸を施し、注射するとか、電氣をかけるとか臨機應變の處置を施して、血液循環が恢復して、正氣になつたならば、そこで始めて全身を溫かにして酒類を與へると云ふ順序である。これを誤まつて、凍死したのだから寒からう、先づ溫めてやれと云ふので、どん／＼焚火をして直接に暖めるならば、生くべきものも却てこれが爲めに死んで仕舞ふことになるから、能く心得て置かなければなりません。又凍死者を運搬したり、手當をする時に、不注意に手足を動かしますと、氷の樣になつて居る手足は折れますから、これも十分氣を付けなければなりません。

以上は凍死のことでありますが、これはさう屢々あるものでないけれども、次に述ぶる所の凍傷は、頗る多いもので、何人も御承知のことである。御承知ではあらうが、更に凍傷に關する、醫學上の說明を聞いて置かれても、敢て仇にもなるまいと存じて、時節柄少々お話を致す次第であります。

一部分の凍傷は、前に兎の耳に就いての實驗で見る通り、人間に於ても略ぼ同樣の順序でありまして、よく火傷に似て居ります。それで凍傷も火傷と同樣に、その變化の程度に依て、これを三度に區別することが出來ます。

第一度の凍傷と云ふのは、其侵された部の皮膚血管が、一時收縮して、其處が蒼白く、冷たくなつて、知覺がなくなる。次で其寒冷が去る、特に溫める時は、その部分が紫色を帶びて紅くなり、僅かに浮腫

で參ります。併しこれは別に療治をせずとも、皮膚が、荒れるだけで癒つて仕舞ふ。特にその初めに只手を以てよく摩擦すれば甚しいことにならずに濟む。けれども反復して寒さにあたる時には、其所に一種の慢性炎症が起る、所謂霜腫と云ふのが是であります。霜腫は御承知の通り、耳朶、手の指、足の趾などの一部分が膨れて、青く紅、光澤がある。而して非常に不快な痒味があつて、特に溫まると一層甚しくなるものであります。これを放任して置きますと、其處が潰れてなか〳〵治癒り難くなります。貧血家又溫度の劇しい變化に逢ふ所の女中小兒は特に罹り易い、而して其身體並びに周圍の狀況が變らなければ、毎年〳〵同樣の難儀をするものであります。これに對しては、先づ豫防が第一で、貧血して居るものは、それを治癒すことを勉めなければならぬ。それから秋になつて稍ゝ寒さを感ずる頃になつたならば、手や足を湯と冷水に代る〳〵浸して、よく摩擦する、而してワセリン、又はラノリングリセリンのやうなものを薄く皮膚に塗るやうにすれば宜しい、但し濕した手足は必ず十分拭乾かすことが大切であります。尚ほ注意すべきことは、彼の頰のがさ〳〵になつてヒゞのきれるのは多く呼氣がかゝつて冷たくなる爲ですから、頭巾や襟卷を用うる時は、特にこれに氣を付けて、頰の濕めらぬやうに頭巾を去つたならば、十分拭き乾かさなければなりません。寒い室に寢て夜著を口まで掛けて休む時も同樣であります。それから足の霜腫は、足趾の先の節と次の節の間の背面、就中小趾の背面と外側の處に多く出來ますが、これは足袋の緊しく當たる處であります。靴は勿論有害ですが、日本の足袋と云ふものも、彼の傘に負けぬ程不格好な脈なもので、特に狹いもの、不潔なものに至つては此上もない有害なものです。凍傷の豫防には、足非緩い足袋でなければならぬ。狹いものは第一溫くないし、又脈迫の爲に却て凍傷の原因となります。若し霜腫が出來て仕舞つた時は、仕方がない、矢張冷水を浸した

布で以て、よく摩擦して、それから拭乾かす。稍ゝ舊いものなれば、ヨード、苛性カリ、樟腦、タンニン、イヒチオール、などの、グリセリン又はワゼリン、或はラノリ、豚脂等に混せたものを塗布する。凍傷の處方は幾らでもあつて、其場合〳〵に依つて選擇しなければならぬが、今一つ二つ處方例を左に擧げて置きませう。

處方　苛性カリ一・〇　グリセリン五〇・〇　酒精三〇・〇　蒸餾水一二〇・〇

處方　精製樟腦〇・五　カヤフテー油〇・三　グリセリン一〇・〇

第二度の凍傷は、火傷の時と同じやうに水胞が出來る。これは寒さが強く長い間作用した場合に起るのでありまして、火傷の時と同様ですが、概して火傷よりは治り難い、やゝ深く侵されるからであります。併し水胞の中の水は、別に腐敗した膿のやうなものではなく、漿液に少し血液が混じる位のものであります。此時の手當は何うするかと申しますに、矢張

其周圍を冷たい布で摩擦し、又按摩を施し、その水を漏らして種々の軟膏類をつけたりするのでありますが、不潔にすると、却て膿を持たしたりしますから、十分のことが出來ないならば、矢張醫師に依賴した方が安全である。唯だ手でも足でも凍傷の起つた部分は、なるべく高く擧げて、靜脈血の還流を良くするやうにしなければなりません。

第三度の凍傷となると、其部分は、全く血の循環が止んで、紫がかつた厭やな黒い色になつて、感じがなくなる、卽ち其部分は所謂壞疽に陷つて死で仕舞つたのである。斯樣になつては手術を受けなければならぬから、別に說明する必要もないが、たゞこれが爲に時とすると膿毒症、敗血症、稀には十二指腸あたりに潰瘍を作るやうなこともある。さなくとも其處から更らに丹毒など云ふ餘計な病氣を惹起して來ることもあるから、兎に角かうなると馬鹿にならぬものであると云ふことだけを申して置きます。餘り冗長に亙りますから、これで止めますが、これで

多少凍傷豫防治療の御參考にもなつたならば幸であります。

室内の燈火

燈火は何時でも衛生上大關係がありますが、特に冬になりますと、夜が長いので、自然人工的の光を用うることが多くなりますから、愈〻衛生上の注意が必要になります。都會に於きましては、只今では大抵瓦斯燈又は電氣燈を使ひますが、少し田舍になりますと矢張石油ランプが通常で、まだカンテラ、行燈時代の處も稀にはあるやうであります。東京に於きましても、隅々まで電氣や瓦斯が用ひられて居るわけではない、矢張ランプが多數であらうと思ふ。それで光の種類に依て、その眼に及ぼす影響の如何等のことは、又別に論ずることゝ致しまして、こゝには單に石油ランプの使用法に就いて一寸御注意を申上げやうと思ふのであります。

ランプが善く燃えませんと、啻に暗いばかりでなく、燃え切れぬ瓦斯が出ますから甚だ有害であります。斯様なランプをつけて、締め切つて置く室内に、外から入りますと、著しく瓦斯の臭がわかります。それでわざ〱心を細くして、終夜寢室につけて置くことは、特の外害になりますから、斯様なことは決して致してはなりません。ランプは出來るだけ明るくしなければなりませんが、同ランプ同じ石油でも、用ひ方で大變暗いことがあります。これは主婦なり、女中さんなりランプを取扱ふ人の惡いので、これを知らぬと、彼の油屋は惡い、此の石油は善くないと云ふて、屢〻取替へて見るが、何れの石油も皆いけないことになります。兎角罪は此方にあることが多いのです。

ランプは先づ時々取ほごして、一々清潔に掃除することが必要です。それから年に少なくとも二度は、油壺の内を石鹼で以てよく掃除して、十分に乾かさなければなりません。而して油壺の中へ、匙で一つ

程食鹽を入れると宜しい、さうすれば石油の中に混じて居る水を吸ひ取つて、純粹にする效があります。次に人の一寸氣がつかないのは、燭心の注意であります。如何かすると、ランプの何處を檢査して見ても更に缺點が無い、然るに火がヒラ〳〵動搖し、又はボコ〳〵と音を立て丶、善く燃えないことがあります。斯樣な時は、往々其原因が燭心にあることが多いのです。これは何う云ふわけかと申しますと、店曝しになつて居る燭心は、空氣中から多量の濕氣を吸收して居る、これを氣がつかずに直ちに用ひますと、彼のヒラ〳〵が起るのであります。卽ち濕氣が、燭心の微細な組織を充たしますと、御承知の通り水と油は仲の好くなり難いものですから、水分を含んで居る燭心には石油が能く浸むことが出來ないその爲に焰のヒラ〳〵、ボコ〳〵が始まるのです。それですから燭心は、これを使ふ前に能く乾かす、或は火鉢の引出にでも入れて置くが宜いのです。酢に浸すと良いと云ふ人がありますけれども駄目です又カンフル或はナフタリンの球を石油壺の中へ入れて置くと良いと云ひますが、これも效がありません」然し貯つて居る石油の中には、隨分性質の惡いものもありまして、さういふものになると、僅かの間に樹脂を塗つたやうに燭心を固めて仕舞つて、燭心の組織の間を塞ぎますから、屢々新しいものと取替へなければなりません。燭心は幾らもしない、安いものですから、寧ろ度々新しくした方が德です。要するに、ランプを淸潔にして乾燥いた燭心を用ひることに注意するならば、美しい、明るい、靜かな燈火を得られるので、何より證據、これは皆樣が御實驗になればお解りになることであります。

不衛生

○眠

一晝夜を三に分ちて、一つを修業、一つを優遊一つを睡眠せんとは西哲の名案なり、げに眠足らぬは終日

興游き基にして、物徂徠先生は眠は眼の食也と云はれ、眠ある毎に膝を枕、夢に周公を見るを樂させられたりき。されど偉人哲人といはるゝ人、多くは又睡眠時の短なりし様なり。白石先生は六時間龜井昭陽は四時間を睡り有名なる奈翁も亦四時間の眠なりしといへり。吾國の豐公はいぬる時常に片目づゝ眠り給ひしとなん、赤髯の豪傑、豐葦原の瑞穗國の英雄に如かざる事万段と云ひつべし。

○夢

昔し男ありけり、大きなる柯の南にいをねたり。夢に、行き行きて莊嚴なる宮居の前に出でにけり、その美くしき事極まりなし云々、傍の人に問へば之れ蟻王宮なりといふ云々、以上は所謂南柯の夢なり

昔、男、盧生となん呼べりける、野くれ山暮れ里くれて、邯鄲の都につきけるほど、しばし假寢の夢枕逆旅のやどに伏したりけり。東には三千萬の黄金の山を築かせて白銀の月輪を出されたり、西には三千丈の白銀の山を築かせて、黄金の日輪を出されたり。數十年の榮華極みなく、歡喜天、有頂天の樂しみつくし、目覺むれば、黄粱の炊ぎ米、未だ一炊に足らぬ暇なりける。之れを邯鄲の夢といふ。

牡丹や朱門を開く蟻王宮　蕪村

○酒の會

次黄坊樽次と池上四郎左エ門と相よりて、三晝夜のみ暮し飲みあかしける時、その酒合せて十二石四斗なりしとぞ、之は德川氏上世の事なり。

○食ひ會

次黄坊樽次と池上と呑み會を催しけるより、世々の酒豪飲酒會を戰はす事度多し、いでや我等も腹の鼓うち、財布内の陳金たゝきて、下戸黨の旗擧げんとさる閑人のいひ出でけり。來り會する者無慮數十騎何某は大福餅を三百個食ひ、何某は雜煮(餅三個入)八十杯平げしなど云ふ中に、松井源水　生豆一升水一升飲み、某侯の家老は生醬油三升を飲みたりけるが、共に夜あけぬ間に死してけり、五千石の食祿、殿の不興を被りて家老の筋なりけるが斷絕しけり、

之は徳川中期の話なり。

處女の衞生（承前）

我國の處女は、西洋婦人の如くコルセットを用ふるものは、殆んどありませぬけれども、日本人の帶は中々堅くしめて居るものが多い、これもその度が强くなるとコルセットと同じく惡い作用を醸すので、これは大に注意をして頂きたいと思ひます。

我々の身體臟器は、成るべく自然の位置にあるやうに保つのが宜しい、不自然であればあるだけ、不適當と申さねばなりませぬ、例へば帶を堅くしめる習慣をつけると、其ために胸の下の方が、壓せられるため、其部分の發育が、惡いことは勿論、呼吸も淺くなり、吸氣の時に胸が開く筈であるけれども、帶のしめ方が堅いと其爲めに十分に胸が擴張せぬ、そのために呼吸が通常のやうに出來ない、從て內臟の働きも鈍るし、血液の循環が惡くなる、便祕が現はれる。

呼吸が淺くなり、弱くなる結果、最も影響をうけ易きものは肺であります、それゆゑ肺の病を惹き起し易いことになる、わけて肺結核が起り易い。

其他胃及び肝臟も帶の影響を受け易い、食事すみて、胃が滿つると、緊紮のために心地が惡くなり、さては劇しい胃痛を起すことさへある。

靴のために足を代なしにしてしまうことも少くはありませぬ、流行と云ふものは、何時でもよい音訪をするものではない、馬鹿げた樣なことでも流行と云ふ力があれば中々隅々までも波及するものです、流行の勢力が盛であるだけ、害を招く場合もそれ丈け夥しい。足背の低い、そして踵の小さい、底の狹い、剩へ足の趾先きの尖つた靴は、足を破壞してしまひます。極端な例を見ると直ぐにわかる、卽ち支那婦人の足は、人工で足を代なしにした著しい例であります。

流行を追ひ、外形を貴び、遂に其目的を忘れて、果

ては、害を招くやうになることは遺憾千萬である。理想的の靴は、自然の足に一致したものであらねばなりませぬ。靴は、自分の足に合せて注文するのが一番よろしい、美麗な靴でも、足を傷ふやうでは何の役にも立ちませぬ。婦人の足と雖も、男子と同じく強健でなければならぬ、大道を活歩し、山河を跋渉するに差支のあるやうでは心細い次第と存じます。

月經の現はるゝ以前に當り、豫めこれをさとし置くことは、母の務めであります。

この出血は、自然的のもので、別に危險なものでなく反復して現はれることを知らせて置かなければなりませぬ、この智識なきため、俄の出血に驚き痙攣を起し、神經の疾患を現はすやうなことがあります」

月經時には、感冒に罹らぬやうに注意をせねばなりませぬ、下半身が著しく冷えるため、種々の病を招くことがあります。斯かる場合には、出血が俄かに起ることも少くはありませぬ。そして膣加答兒、子宮内膜炎を起すことさへあります。又腸と子宮との間の空隙に出血を起すこともある。それでありますから、不注意のために斯かる惡影響を我から招くやうなことがあつてはなりませぬ。

それでありますから、月經の間は成るべく身體を溫かにして居て、殊に下半身は決して冷えぬやうに注意せねばなりませぬ。冬期はフラチルのバッチを穿けば、よろしい。

足も亦冷え易いので、これも溫かにして居らねばなりませぬ。若し濡れた場合は、速かにとり替えて、冷却を防ぐやうにし、靴を用ふる人は、雪ふる朝、雨の日は、ゴムの上靴を着せて、濕潤を防ぐやうに心懸けねばなりませぬ。

月經時に身體を劇動し、又努力を要することを續けるために、生殖器の疾病を起すことがあります。即ち膣加答兒、子宮炎等が現はれます。この故に工場等の場所に業務をとれる婦女子は、月經時と雖も、休むことを許されぬ爲め、生殖器其他の疾病を發す

ることが度々あります。

されば、月經中は、自轉車、ボール、舞踏、乘馬等は無論避けねばなりませぬ、これ等は母が注意をして禍を買ふやうなことのなきやうにするのが大切です。

其他强き下劑を用ひたり、熱せる液で膣を洗つたり、アルコホール性飮料を用ひる等もよろしくない。又慣れないものを食べることも惡いし、慣れて居るものも、多量に用ふることはよろしくない。故に飮食、擧動のことすべて控え目にして居らねばなりませぬ。

精神も太く興奮するものを避け、平安無事に保つやう心かけが大切です。それゆへ遽に驚愕すること、憤怒の念を起すことなからしめ、安らかに過ごすやうにするのです。

月經の現はるゝ際、身體に故障の起る習慣ある人は、發潮の前に注意して、身體の安靜を守り、無理をしてはなりませぬ。

多量の出血を恐るゝ人は、月經時は全たく安靜にして居らねばならぬ、靜かに臥牀して居るのがよろしい。下身はあまり溫まり過ごさぬやうにして、アルコホール性飮料、咖啡等は用ひてはなりませぬ、食物も正規にとりて、便祕を起さぬやうにし、若し祕結の傾あらば、果實、牛乳、等を用ふれば、效を奏することがあります。

神經性の人にありては、月經時に疼痛の起ることも珍らしくはない、斯かる場合は、絕對的に身心の安靜を守り、臥牀するがよい、たま適當の溫度を保つことも、鎭痛の手段となります。

斯かる疼痛を消散せしむるために藥を用ふることは好ましいことではない、原因的に疼痛を避けるには、正規の生活方法を守ると云ふことであります。卽ち飮食、運動、執業等すべて其度宜しきを得て、常に身體の鍛錬を心かけ壯健の質を造つて置けば月經時に於ても、種々の障碍を見ることなくして經過するやうになります。

雜報



○博覧會出品模型

明年獨逸國ドレスデンに開催される萬國衞生博覧會へ、我が内務省から出品する富士、箱根の模型は、神田昌平河岸の學海指針社で製作されたが、これは陸軍測量部出版の二萬分一地圖を土臺にして東は國府津、西は蒲原、南は修善寺、北は富士登山口の吉田に及び、二間四方に組立て、富士山は一尺二寸二分七厘の高さにて、裾野、富士川、酒匂川等の砂礫や土色まで何れも實物通りの色彩にし、樹木は皆萬年苔を用ひ、田畑や草地は氈毛を粉末にして程善く作つたもので、箱根の紅葉なども眞に巧に出來て居る。それから東京衞生試驗所と日暮里町屋火葬場の兩模型は、日本聾唖技藝會へ囑托されたのであるが、青山泰石氏監督の下に聾唖生十数名に依て製作され、原型の百五十分一の模型にて、その材料には地板の外總て朴を用ひて一切彫刻とし、衞生試驗所の特別試驗室などは、五分に二分七厘の窓を開けると、博士たちか分析試驗の最中で、レールで藥物を運ぶ所から、官舎の襖の書、門衞、犬菖蒲、枳殻の垣根まで、驚く程微妙に出來て居る、火葬場の方も、其構造を明かにする爲に十分一の火葬竈と廿分一の煙突を添へて其裝置を示し、殊に櫻、柳を綾なしてその陰氣を避けたるなど、何處までも用意周到に且つ精巧を極めたものである。日英博覧會へ出品して好評を博した淀橋淨水場の模型も、聾唖技藝會の製作であつたが、今回のものも無論好評を得ることゝ信ずる。

○狂犬の注意

東京府下には、段々狂犬病が多くなる傾向があるので、警視廳第三部では、これに關する注意書を刷物にして各警察署の巡査より、府、市、區會議員、

小學校教員其他の官衙團體等にも配布して、取締の參考とし、又一般に本病の恐るべきことを知らせて、豫防の目的を達する考であると云ふが、今警視廳の調査で見ると、本年の一月から九月迄に人に咬傷を負はせた犬の數は九百一頭で、その中飼犬は七百八十九頭、野犬が百十二頭あるが、その九百一頭の中狂犬と決定されたのが、飼犬が二十五頭、野犬が十五頭都合四十頭もある、而して被害者の數は實に八百九十名に達して居る、犬を飼ふて居る人は十分この邊に氣を付ける責任がある。

○貝類の榮養價

昔から貝類は滋養分が多いと云はれて居つたのであるが、近頃廣島衞戍病院附の陸軍一等藥劑官北村忠四郎氏が、廣島名產の牡蠣に就いて精細の調査報告をされた、而して其結論に於て左の如く云はれて居る。

一、貝類中には何も多量の「グリコーゲン」を含有せり、然り而して「グリコーゲン」の榮養上に於る效價亦近來の學說の如くなりとすれば余は實に貝類食を大に鼓吹せんと欲する者なり、貝類は廉價にして容易に得らるべく且「グリコーゲン」は煮沸すれば其の大部分は溶出するを以て之を「スープ」とせば蛋白獨り「グリコーゲン」のみならず溶解性質及芳香分と一種の美味とを有するを以て患者の滋養品として其養價尠からざるものと信ぜり、然らは敢て高價なる「グリコーゲン」を用ゐざるも貝「スープ」にて足れりとす。

二、貝類を刺身とするとは大に「グリコーゲン」の量を減損するに依り斷然之を止むるを可とす余は生貝を直に沸湯中に投じ後ち甲殼を去り其の液汁の上液(砂を除く爲め)を取り肉と共に適宜鹽梅して食膳に上ぼさんことを世人に勸めんとす。

尙は同氏は貝類の養價に就きて、普通食用に供せらるる十一種の貝類の分析表を示し、その表に出て居る蛋白質の中、溶解性のものは幾分あるかは、未だ檢査したものがないやうである。又貝類は不消化で

あると云ふ人があるけれども、久しい間よく煮れば、肉纖維の柔軟になることは、自ら實驗して見た所で消化も容易であることを附言された。

○消毒班

東京市の消毒實行機關として、消毒班と云ふ一隊を設けやうと云ふことは、大分以前から計畫されて居つたが、愈〻今度それが成立して、當分は深川の東京市消毒所の附屬とし、來年の一月より先づ本所、深川方面だけに試みて、結果が良ければ、來々年度から市の要所〳〵に數隊を置くことにするとのことである。今の所では一隊は三班から成つて居て、各班は患者輸送馬車一臺、死體及汚物運搬車一臺、技手一名、消毒手七名より組織されて居る、尚ほ右の消毒班の爲に講習會を開く筈である。

○看護婦免狀

大阪府にては、これまで官立、府縣立の看護婦養成所を卒業したものと、日本赤十字社看護婦養成所を出たものに限りて免狀を下附し、他府縣にて資格免狀を得たものも、大阪では更に試驗した上でなければ免狀を下附しなかつたが、近頃は此の免狀を以て嫁入道具の一にして、試驗に及第すると直に緣付くものが多く、實際看護に從事するものゝ數が非常に少なくなつて來たので、警察の衞生課ではこれが善後策として、看護婦取締規則の一部を改正し、今後は他府縣で資格を得たものも、出願すれば詮衡の上免狀を下附することゝなつた、尚ほこれまで四月と十月に行つた試驗を、今度は三月と九月に產婆試驗と同時に施行することにせられた。

○怖い中毒

女子は裁縫などのときに、指の尖を傷つける場合が多いその時に針が淸潔であれば　その傷は一寸のことで濟むけれども、インキの付いたペンなどで指の尖を刺したときなどには、インキのために意外の害を蒙むることがある、最も怖いのは、マッチの藥の付いて居る方が、傷の內に刺込まれたときである。又その藥の破片が爪と指との間に挾まつてゐるとき

などは、燐の中毒のために生命を危くすることがある、その時には、腕が腫れ上つてきて、非常に痛み始める、これの治療には、その傷の所を温い酸牛乳或は牛酪乳の内に入れて、克く洗ふのである、牛乳を度々取り替へれば、尚ほ結構である、二三度洗つて、傷口を清潔にし、輕く繃帶を施して置くと、一二時間内には腕の腫や痛が去つて、危險が取り去られるのである。

○結核豫防

白耳義國のグオルグ、ブルーグマンと云ふ富豪が、ブリッセル府に五百萬「フラン」を寄附して、その中六十萬「フラン」を以て結核患者療養所を設け、その殘額は療養所の經費に充てるやうにとの注文をしたので、同市では早速郊外のアルセンベルグと云ふ所に非常に立派な療養所を建てることゝなし。

ブルガリヤ國王フエルチナンド陛下は自ら十萬「フラン」を下賜されて、一の國民療養所の建設を命せられた、同國にては人口一萬人に付三十一人の結核死亡率なさうである。

獨逸國に於ける肺癆療養所の進歩は非常なもので、過去十五年以來出來た病牀數は二百四十三より八千四百二十二となり、療養所の數は二百以上になつて居るさうである。

廣告

○第一回演奏會

私立大日本婦人衞生會は、十二月の例會を見合はせ、戊申婦人倶樂部及び共立女子職業學校同窓會なる櫻友會と聯合の上本月三日四日の兩日午後一時より神田區一ッ橋通り女子職業學校の新築大講堂に於て第一回の演奏會を開催せるが、プログラムの和洋音樂を取交せ非常に賑にして曲目も面白きもののみを選まれたると、役員世話人等の斡旋に骨折られたる甲斐ありて、二日共千有餘名の入場者あり、さしもの大講堂も滿場の姿にて、午後七時頃に至るまで一

奏毎に拍手喝采急霰の如く何れも大成功なりしが、只曲目の豊富なるに開始時間の餘り早からざりし爲め、點燈頃に至つては場内の動搖を免れず、從て樂手も多少張合拔けせる氣味あるは止むを得ざる次第にて、頗る遺憾とせる所なるが、兎に角終りに至るまで大部分の聽衆を止め得たるは滿足するに足る、第二回の演奏會は更に一層の盛會を期すとは役員諸氏の意氣込なり。

○私立大日本婦人衛生會

○本會入會者

○事務所申込
●下谷區茅町二ノ二七根岸方　通常會員　仁科まつ子
○莊司氏紹介
●廣島縣比婆郡庄原町　通常會員　村松あさぢ子
○齋藤ます子紹介
●小石川區音羽養生所内　通常會員　吉見しん子
●同　通常會員　鈴木らく子
○本間蓮子紹介
●北海道北見國雄武小樽木材會社事務所内　通常會員　河野みき子
○事務所申込
●本郷區菊坂町　通常會員　神谷ゆき子
○松平芳子紹介
●麴町區　特別會員　岩佐千賀子
○事務所申込
●佐賀縣東松浦郡唐津町　通常會員　唐津高等女學校校友會

○轉居

●廣島市鐵砲町一七七へ　田中直子
●牛込區矢來四ノ四兵頭方へ　櫻井かほる子
●朝鮮京城大和町一ノ三二〇へ　河野衛
●芝區伊皿子町廿四ノ一へ　牧野美子
●本郷區駒込千駄木町五〇へ　三田谷啓
●小石川區白山御殿町ノ一〇六へ　小川すい子
●府下下戸塚元高田馬場へ　相馬みつ子
●麴町區上六番町十四へ　村井光子
●麴町區六番町七四　金杉まつ子

新案特許 一〇三六二一號

衛生的なる改良かもじ發賣



本品の特長

一、根元にコロップを装置せるにより舊式のものゝ如く硬からず膚ざわり軟らかなり

二、皮膚を摩擦する事少きゆゑ頭のはげる憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髪の傳染病を媒介する憂なし

◉丸髷 金十五錢より金七十五錢迄

◉島田髷 金三十錢より金壹圓五十錢迄

◉銀杏髷 金二十錢より金六十錢迄

◉送料 各八錢

◉諸かもじ製造販賣

東京市神田區豐島町十七番地 【振替貯金口座一八一八八番】

田中金三郎

◉小賣特約店

京橋南傳馬町 大西白牡丹 ｜ 本郷三丁目 兼康 ｜ 淺草駒形 百助 ｜ 淺草駒形 紅勘 ｜ 神田區須田町 三井屋 ｜ 日本橋通二丁 柳屋

特約店

神田區橋本町三丁目 勝本治助
日本橋區田所町廿一 山三商店
同 横山町一丁目 安井治太郎
同 馬喰町三丁目 萬新商店
日本橋區若松町 松葉屋紋太郎
同 横山町一丁目 天野源七
同 馬喰町三丁目 阿部錠
同 橘町四丁目角 島村商店
日本橋馬喰町二丁目 飛川商店
同 横山町二丁目 江川小間物店
同 横山町二丁目 森本支店
外全國到る所の小間物店にあり

▲高峰博士發見特許製法に由る消化新藥▲强度一定効力永久不變
▲類似模造品あり「タカ」の冠字御注意▲各地有名藥舗にあり
▲日英博覽會化學品部に多數のヂアスターゼ類出品せられたるも審査の結果獨り本劑の優良なるを賞賛し特に發明者の功勞を表彰せんが爲め我高峰博士に最高賞牌たる**名譽大賞**を贈與せり本社は我醫界に本劑の優秀絶倫を證明せられたる此賞蹟を報導し得るを大なる光榮とす。▲説明書郵呈す

タカヂアスターゼ

發賣元 東京市日本橋區室町三丁目 三共合資會社

特許新藥 ユーキリン

大學教授博士鈴木梅太郎氏發見の特許製法に由り製造せられたる本劑は吸收性同化性の**完全なる有機性燐化合物**にして其効用は總ての營養増進に在り結核性患者、食慾不振、病後恢復期に用ゆべく殊に**神經衰弱**患者の營養劑とし卓効あり

發賣元 東京市日本橋區室町三丁目 三共合資會社

●前金切レノ御方ハ何卒此際御送金被下度願上候

振替口座東京 一〇六〇〇番

●本誌ニハ各位ノ御便宜ヲ謀リ振替拂込用紙ヲ添置候

明治四十三年十二月

大日本婦人衞生會

婦人衞生雜誌代價及廣告料

代價		
一冊	定價金貳拾錢	郵稅壹錢
三冊(三ヶ月分)	前金郵稅共	金四拾五錢
十二冊(一ヶ年分)	前金郵稅共	金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行・一行二十三字

一頁 金三圓　半頁 一圓五拾錢

○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行十五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵劵ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

明治四十三年十二月十七日印刷
明治四十三年十二月二十日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區駒込追分町三十番地　莊司秋次郎

印刷者　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　今井甚太郎

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍

發行所　東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衞生會事務所

賣捌所

東京本郷區龍岡町　吐鳳堂
東京市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鎗屋町　良明堂
同市本郷區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛春堂
名古屋市本町三丁目　丸善書店

歌書刊行會校

上等和紙印刷

優美製本

和歌八代集 完成

古今集二冊　後撰集二冊　拾遺集二冊　後拾遺集二冊　金葉詞花集二冊　千載集二冊　新古今集四冊

井上博士校訂

各集分賣

全拾六冊

正價九圓九拾錢

小包稅貳拾四錢

歌仙家集 完成

全六冊

正價參圓六拾錢

郵稅拾貳錢

本會顧問

文學博士　萩野由之君
鎌田正夫君
醫學博士　井上通泰君
伯爵　柳原義光君
子爵　相良頼紹君
下田歌子女史
子爵　渡邊千秋君
賀古鶴所君
大口鯛二君
柳田國男君
佐々木信綱君
醫學博士　森林太郎君

目下第二期事業トシテ

御歌所寄人井上通泰博士監督ノ下ニ

近藤芳樹翁遺著萬葉集註疏
中山美石翁遺著後撰集新抄
藤井高尚翁遺著古今集新釋

を毎月貳冊を刊行し既に十冊を出したり是皆故人が心血を濺ぎて述作せられたる**名著**なれば斯道學者の益を得ること極めて多かるべし

刊行會は其完結を誓ふ

●刊行會趣意書規定及見本ハ往復はがきニテ申込マルレバ直ニ附郵ス

東京市本郷區龍岡町　振替東京三〇五八番

發賣所　電話下谷{四〇七九 一六七二}　聚精堂